

Title	コミュニティ・コミュニケーション・システムの構造：普及過程の総媒体に関する事例的考察
Sub Title	The structure of community communication system in Japan : a case study of community communication system as the total media for social diffusion process
Author	宇野, 善康(Uno, Yoshiyasu) 中村, 俊雄(Nakamura, Toshio) 野崎, 龍一(Nozaki, Ryuichi) 村瀬, 峻一(Murase, Shunichi) 青池, 慎一(Aoike, Shinichi)
Publisher	三田哲學會
Publication year	1974
Jtitle	哲學 No.62 (1974. 3) ,p.107- 183
JaLC DOI	
Abstract	As the first step to elucidate the total media for social diffusion process, we made an attempt to grasp the structure of community communication utilizing a typical Japanese community as a case. The first step in our current study was to establish the concept of "community communication" for the purpose of developing a framework enabling the perception of communication phenomena within a community from the group level (or sociological level). Followingly, preparation was undertaken to develop an integrated perception of both verbal and non-verbal communication with the use of the concept "information stimulus". The next process involved the preparation of the analytical dimensions of historical and geographical community communication. It is believed that the difference in these dimensions accounts for the difference between the community communication found in Japan and in the western world, namely the United States and Northern European countries in particular. Then, by affixing the historical and the geographical aspect on the poles of the dimension, a careful consideration was made on both inter community communication (input and output community communication) and intracommunity communication. For intra community communication, various situations and elements leading to the formation of community communication space which in turn regulate community members' behaviors, were considered. In addition, considerations were also given to traditional human relations, organizational structures, and informal communication relationships found within this space. The community, as featured in this study, is quite clearly not the planned society resulting from the notion of ideal society as used by many urban planners today. On the contrary, the community in this study is a typical Japanese small community, formed historically and thus containing various elements typical to Japan. The reason a community of this type was selected for the current study was based on the belief that the basic understandings of various problems facing segmental societies of modern days Japan can be obtained. This is quite obvious in rural community faced with decreasing population and also in static communities, but amidst the many Japanese local communities, which are in the process of expansion, these small traditional communities form the core. In these communities, problems are created by people moving in from the outside and mixing with the population within. However, in contrast to the small segmental communities decreasing in population, the larger communities increasing in population density possess various elements to attract new population, and these elements and the relationship between the new and old population must be considered within the framework of community communication system.
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000062-0107">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000062-0107</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# コミュニティ・コミュニケーション・システムの構造

——普及過程の総媒体に関する事例的考察——

宇 野 善 康

中 村 俊 雄

野 崎 龍 一

村 瀬 峻 一

青 池 慎 一

## 1. コミュニティ・コミュニケーションの概念

人間個人を単位として、人間世界にみられる種々のコミュニケーションを一般に、human communication と呼ぶ。そして、個人間の相互作用を広い意味で inter communication といい、個人内に生ずる細胞間の相互作用およびモノログを intra communication といっているが、われわれは、ここに新しく、コミュニティを単位として、それを取巻く種々のコミュニティおよび他者との間のコミュニケーション、ならびにそのコミュニティ内にみられるコミュニケーション現象を「コミュニティ・コミュニケーション」と名づけることとする。つぎに、

外界から特定コミュニティの内部へ情報刺激のはいつてくる場合のコミュニケーションを Input コミュニティ・コミュニケーションと呼び、特定コミュニティから外界へ情報刺激がでていく場合のコミュニケーションを Output コミュニティ・コミュニケーションと名づける。さらに、この特定コミュニティの内部において生ずるコミュニティ成員間の相互作用を Intra コミュニティ・コミュニケーションと定義することにする。

そして、この Input コミュニティ・コミュニケーションと Output コミュニティ・コミュニケーションとをあわせて、Inter コミュニティ・コミュニケーションと呼ぶこととする。

コミュニティ・コミュニケーションの概念は、human communicationの単位である個人をコミュニティに置き換え、個人レベルの視点を集団レベルの視点に移して、社会的コミュニケーションの分析にフレームワークを与えるための概念である。

human communication とコミュニティ・コミュニケーションとは、種々の点で対応するところがあるが、これは飽くまでも比喩的対応であって、比論的対応ではない。個体内の細胞は、コミュニティ内の成員が自己意志によって移動するように、その個々の細胞の意志によって能動的に自由に位置を変えることはない。コミュニティは人間個体のように、完全に物理的・生理的に独立した個体ではなく、その規模、構成要素、組織などの変更や他のコミュニティとの合併などが可能だからである。

しかし、コミュニティ成員の自由性を歴史過程のある時点において、極度な役割規定と厳しい身分制をもち、移動が禁止され閉鎖された状態を想定すると、個人とコミュニティを対応的に考察することができ、その時点を一つの対応的原点として留意し、コミュニティ成員における不自由性の歴史的変遷によって、個人とコミュニティとの対応が遊離していくと考えておきたい。

筆者が懐いてきたコミュニティ・コミュニケーション概念に類似の概念の着想は、多くの人がすでに抱いたものと思われるが、従来のコミュニティ研究に関する諸概念をこの概念によって統一し、地域社会のコミュニケーション体系の構造を明確にすることによって、行政上、自治上、商業上その他の諸活動を統合的に解明し、その操作に資するための作業は未だしの観があるように思われる。

都市化がすすみ、急速な人口増加によって膨脹を続けている地域社会で

は、この社会の地域社会的コミュニケーション体系を明確にすることは、困難であるが、この生成的体系の明確化なくしては、行政上、自治上、商業上その他の活動上の適切な対策を講ずることは不可能である。

地域社会的コミュニケーション体系を明確にするための基礎概念として、「コミュニティ・コミュニケーション」の概念を必要とするのである。

(註) コミュニティ・コミュニケーション概念の定義とこの概念の統合性に関する精細は別のところで論じなければならないが、人間行動を開発するコミュニケーション空間の構造を解明するために、昭和38年(1963年)に、われわれがおこなったマス・コミュニケーションの地域社会的実験調査ならびにその後、同一地域社会に対しておこなったイノベーションの普及過程調査において、われわれはコミュニティ・コミュニケーション概念に関する実地的研究をおこなっている。以下の諸論文はその成果の一部である。

生田正輝・宇野善康・村瀬峻一：情報伝達と社会行動——マス・コミュニケーションの地域社会的実験——慶応義塾大学新聞研究所紀要マス・コミュニケーション研究，1，1967。

中村俊雄：八王子部落の社会構造——その組織と機能——慶応義塾大学文学部卒業論文(宇野研究会)昭和39年3月

野崎龍一：八王子調査報告——TV普及過程の構造機能的分析——慶応義塾大学文学部卒業論文(宇野研究会)昭和39年3月

村瀬峻一：コミュニケーション研究序説，慶応義塾大学文学部卒業論文(宇野研究会)昭和40年3月

青池慎一：地域社会における Innovation 伝播過程，慶応義塾大学大学院修士論文，昭和43年3月

浅井治男，高橋明美，山口良之，鈴木清章，原克仁：八王子における住民の社会的属性と Innovativeness，慶応義塾大学文学部卒業論文(宇野研究会)昭和44年3月

福田俊男，井汲清嗣，石井義明，菊地純市，宮原佳子，吉崎正則：イノベーションの普及研究——事例研究としての八王子調査，慶応義塾大学文学部卒業論文(宇野研究会)昭和45年3月

青池慎一，宇野善康：革新的アイデアの普及に関する諸命題その(4)——新潟県刈羽郡小国町字八王子(旧山横沢村)における自動耕うん機の普及過程——昭和48年 哲学第61集

## 2. コミュニティ・コミュニケーションの体系

第1表は、コミュニティ・コミュニケーション・システムの構造を一つの事例にもとづいて示したものである。事例として取り上げたコミュニティは、新潟県刈羽郡小国町字八王子である。この八王子部落は、約1000年前より逐時、同族の落人集団によって開かれた村で、八石山中の僻地にあって周囲の部落から隔離され、すべての住民は最近まで、4つの姓（中村、飯田、内山、安沢）のみに属し、同族結合がかたく、この部落をコミュニティ単位として、コミュニティ・コミュニケーションの日本の原型の一つを考察するために好都合な地域である。

第1表中の「歴史的コミュニティ・コミュニケーション」とは、過去の時代から現代へ伝えられた情報刺激によるコミュニケーションのことである。現在の住民の行動を制約もしくは規制し、あるいは方向づけるものとしての法体系、諸思想、信仰、伝統、慣習、習俗、諸規約、家憲・家訓、申し合わせ、遺伝、過去に開発された物理的・地理的変化等々による情報刺激の伝達が、歴史的コミュニティ・コミュニケーションである。これには、影響を示さない潜在的なものと効果を示す顕在的なものとの二種類がある。

八王子部落のある家では、電気炊飯器を人目につかない押入れの中で使っている例があった。この家の本家が炊飯器をまだ購入していなかったため、分家として僭越になることを恐れ、人目につく場所での使用を憚ったためであった。長野県のある村で、急いでTVを購入した人に理由を聞いてみると、まだ買うつもりはなかったが、分家に当る家がテレビを購入したので、本家としての面目上、購入したとのことであった。農家の地主、あるいは本家は代々受け継いできた先祖からの土地を維持するために、生活を質素にして、現金収入をそれに当て、反対に、多くの土地を維持する必要のない人たちは、出稼ぎ・工場勤務などから得た現金収入を新製品の購入にあてる事情があった。

地主・小作関係は、昭和28年の農地改革以後、消滅したが、生活維持に対する構えの歴史的相違のため、地主創設法によって地主となった人の中の一部には、

第1表 コミュニティ・コミュニケーション・システムの構造 [新潟県刈羽町字八王子の事例にもとづく]

歴史的 地理的		歴史的コミュニティ・コミュニケーション	
		過去	現在
Input コミュニティ・ コミュニケーション	→	○ 交通路による人間と物を通しての(情報刺激の流入)コミュニケーション ○ 行政上・組織運営上の指令・連絡コミュニケーション——役場の支所・農協へ ○ 郵便・電話コミュニケーション——出稼ぎ者、転出成員、通婚圏その他から ○ マス・コミュニケーション——新聞・雑誌・週刊誌・ラジオ・テレビ ○ 映画コミュニケーション(青年会・婦人会の主催するものと新潟日報の催すもの)	→ 未来
		○ Intraコミュニティ・コミュニケーション空間を構成するものとしての諸状況と構成 ○ 状況——風土的、生物的(結びつきによる生存安定感)、文化的、経済的、社会的(人間関係、コミュニティ規範その他) ○ 構成——年令、学歴、職業、役割、家族、所得、資産、行政区、地目 ○ Intraコミュニティ・コミュニケーション空間における関係と諸組織 ○ 関係——本家・分家、地主・小作、相互援助(葬式、火事、屋根の葺き替えその他) ○ 組織 ○ 行政組織——本庁——支所——住民 ○ 部落区制——総会、常会、伍長会、審議会、総代——専門委員会 ○ 農協組織——および農協に協力する部落組織 ○ 教育組織——卓教育委員会——地域出張所——小口町教育委員会——八王子PTA組織 ○ 婦人会組織——(自治組織) ○ 消防団組織——(自治組織) ○ 青年会組織——(自治組織) ○ インフォーマル・ネットワーク——共同生産仲間、共同消費仲間、近隣話仲間、学校仲間、出稼ぎ仲間、家族・親類仲間	
Output コミュニティ・ コミュニケーション	→	○ 交通路による人間と物を通しての(情報刺激の流出)コミュニケーション ○ 行政上・組織運営上の上申・連絡コミュニケーション——役場の支所・農協から ○ 郵便・電話コミュニケーション——出稼ぎ者、転出成員、通婚圏へ	

土地所有を維持できない事情もあった。地主・小作関係は、請負耕作関係という形で今日も尾を引いている。

また、上記部落で、村外れにあり、どの当主も村の役職についていない家があったが、これは200年程前、村の中央にその家があったとき、その家より出した失火により村の半数近くの家が全半焼したため、村外れに移住させられ、今日まで役職につくことが許されていない由であった。

住民の現在の諸行動を了解し、説明するために歴史的情報刺激の伝達を看過できないことは申すまでもないが、潜在的影響の考察のために歴史的交流の検討を必要とする。但し、この論文では、紙幅の都合で歴史的せんさくは割愛する。

つぎに、「地理的コミュニティ・コミュニケーション」とは、特定の情報刺激が、ある地点より他の地点に達して受容されるコミュニケーションをいう。この過程は、情報刺激が外界から特定のコミュニティにもたらされる過程、およびそのコミュニティから外界へ情報刺激が送り出される過程、ならびに、コミュニティ内において情報刺激が場所的に移動する過程を含む。地理的コミュニティ・コミュニケーションは、情報刺激の送り出しから受容までの時間経過を含む過程であるから情報刺激が移動に要した時間的要因もその限りにおいて含まれる。

以上において、歴史的ならびに地理的要因をコミュニティ・コミュニケーション・システムの構造の主要な柱としたのは、日本的コミュニティの原型の基本的特長が、この二要因によって形成されているからである。歴史的時間に亘って一地域内に定住し、社会的移動が少く<sup>(註1)</sup>狭小な地域内に密集して生活してきたことに日本的コミュニティの特長の基盤があるからである。この二つの要因が日本人の人間関係を特色あるものにし、日本人に特有のコミュニケーション形式を生み出したと考えられるからである<sup>(註2)</sup>。

(註1) コミュニティには、その成員に対して一定人口の収容能力がある。この収

容能力は、このコミュニティの生産性と成員の職種ならびにこのコミュニティを取り巻く地方経済圏の構造によって変るが、この收容能力を超える人口はいろいろな形（転出または季節的移動）でコミュニティ外に出ることになる。この收容能力以内の人口でも、コミュニティ規範や人間関係あるいは野心または外界からの誘引などを原因として移動がおこなわれるが、日本では飽くまでも定住者が基盤となり故郷を形成する。これは農耕民族としての土地への執着や封建時代に他国への移動が不自由であり、他国で職業に就くことが困難であったばかりでなく、この故郷的基盤を離れることは“仲間外れ”になることであり、仲間外れとは人格や道徳に欠け、卑しく、まともな人間ではないと烙印を押されることに外ならなかったからである。このコミュニティの人間関係が、種々の社会集団に移行し、今日でも、日本の企業や、大学などの間で移動が少く組織成員自身が移動を歓迎しないのはこの理由による。

(註2) このことに関して要約的であるが、以下の論文に所見を述べておいた。

Y. UNO & Rosenthal R.; Tacit Communication Between Japanese Experimenters and Subjects *Psychologia*—An International Journal of Psychology in the Orient vol. XV. No. 4, December, 1972.

Intra コミュニティ・コミュニケーションに関しては、コミュニティ成員の行動を規制もしくは開発するところのコミュニケーション空間を構成する諸状況と諸構成、ならびにこのコミュニケーション空間における人間の歴史的諸関係と諸組織、およびインフォーマルネットワークに着目する。

Input および Output コミュニティ・コミュニケーションに関しては、時系列的情報刺激の流入・流出と情報刺激の空間的相互作用に着目する。

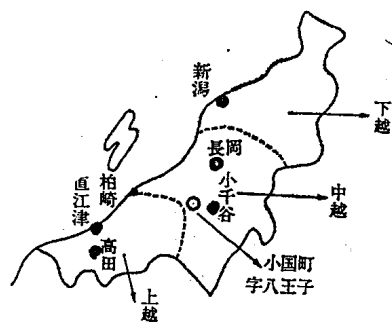
### 3. 八王子部落（旧山横沢村）の概況

ここでは、第1表の中の Intra コミュニティ・コミュニケーション空間を構成するものとしての諸状況と諸構成に対応するものの一部分と、Input & Output コミュニティ・コミュニケーションに属する事項の一部分を取り上げて、八王子部落の概況を述べる。

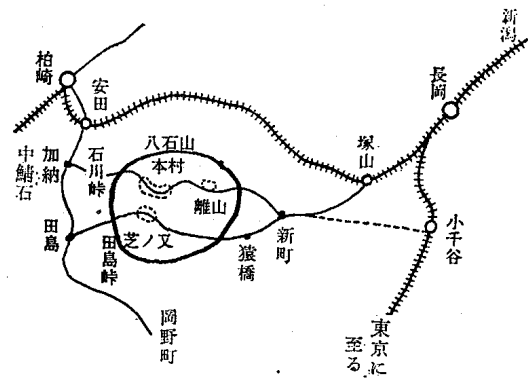


八王子部落は、第1図aにみられるように新潟県のほぼ中央に位置している。新潟県は、高田市、直江津市を中心とする上越、長岡市を中心とする中越、新潟市を中心とする下越の三つに分れるが、八王子部落は上越と中越の間にある。そのため行政上では上越（この場合、柏崎市を中心とした地域）に属し、教育上では中越（長岡市中心）に属している。

つぎに第1図bを参照しながら、昭和38年現在における交通路について



第1図a 新潟県概略図



第1図b 新潟県刈羽郡小国町字八王子所在地

述べると、八王子から最も近い国鉄は信越本線であって、長岡方面から部落に入るには、塚山駅で下車し、バスで小国町猿橋まで乗り（ここまで約1時間）そこから約1時間、山道を歩かなければならない。柏崎からは岡野町行きバスに乗り、中鯖石の加網で降り（約40分）、石川峠を歩いて越えるのである（約1時間半）。又、芝の又に入るには、岡野町行バスで田島まで行き（約1時間）、田島峠を歩いて越えねばならない（約1時間）。バスの回数は1時間に1本である。昭和36年までは、柏崎—田島—芝の又—小国—小千谷線のバスが1日2往復していたが、36年の伊勢湾台風によって、小国—小千谷間の道路が破壊され、利用者も少いことから中止された。しかし、昭和38年現在において、テラー（耕耘機）やオートバイが購入され、住民の主要な交通機関となっており、小国町からはタクシーを利用

第 2 表 新潟県刈羽郡小国町字八王子地目構成 (昭和38年度)

種	類	町・反・畝・歩
総面積	民有地	441・9・7・29
	村有地	102・3・3・10
民有地	田	94・7・1・08
	畑	54・5・7・05
	宅地	6・5・1・17
	山林	282・5・6・26
	雑種地	・ 2・19
	鉱泉地	・ 1・00
	溜池	・ 3・1・20
	保安林	・ 2・5・24
村有地	田	・ 3・7・10
	畑	・ 2・2・25
	宅地	・ 1・7・16
	山林	82・2・1・20
	保安林	19・4・3・29
総面積		544・3・1・09

することができる。

八王子部落は、八石山中の僻地村で、部落の西に八石山脈連り、北西に主峰八石山がそびえ、山麓は本村に急傾斜している。石川峠(海拔 353m)は、中鯖石、南鯖石と境している。本村は八石山の前山的長支脈猿橋峠山列により、小国平地より隔離されている。本村・分村にある各家屋は、それぞれ立派なもので豊かな村という印象を受ける。しかし、夏はフェーン現象によって極度に暑く、冬は3米にも及ぶ積雪のため、小国平地や石川峠

第3表 新潟県刈羽郡小国町字八王子・区構成（昭和38年8月現在）

本村(129戸)	— 1区(水上)……26戸
	— 2区(秋葉)……24戸
	— 3区(中王)……29戸
	— 4区(諏訪)……22戸
	— 5区(木梅)……28戸
分村・離山(19戸)	— 6区(離山)……19戸
分村・芝の又(35戸)	— 7区(芝の又)……35戸

からの道は杜絶され「陸の孤島」となる。積雪中、村の人は二階より出入りし、ある場合には雪のトンネルを掘ってわずかの通路を作る。

この部落の地目構成は、第2表のごとくである。

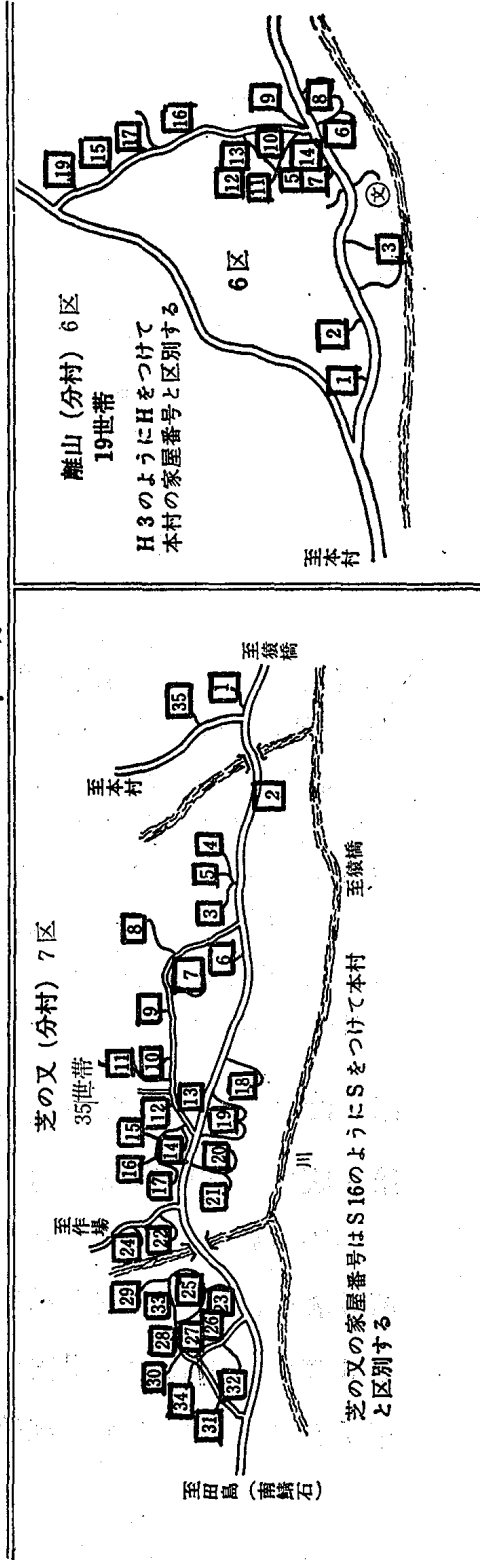
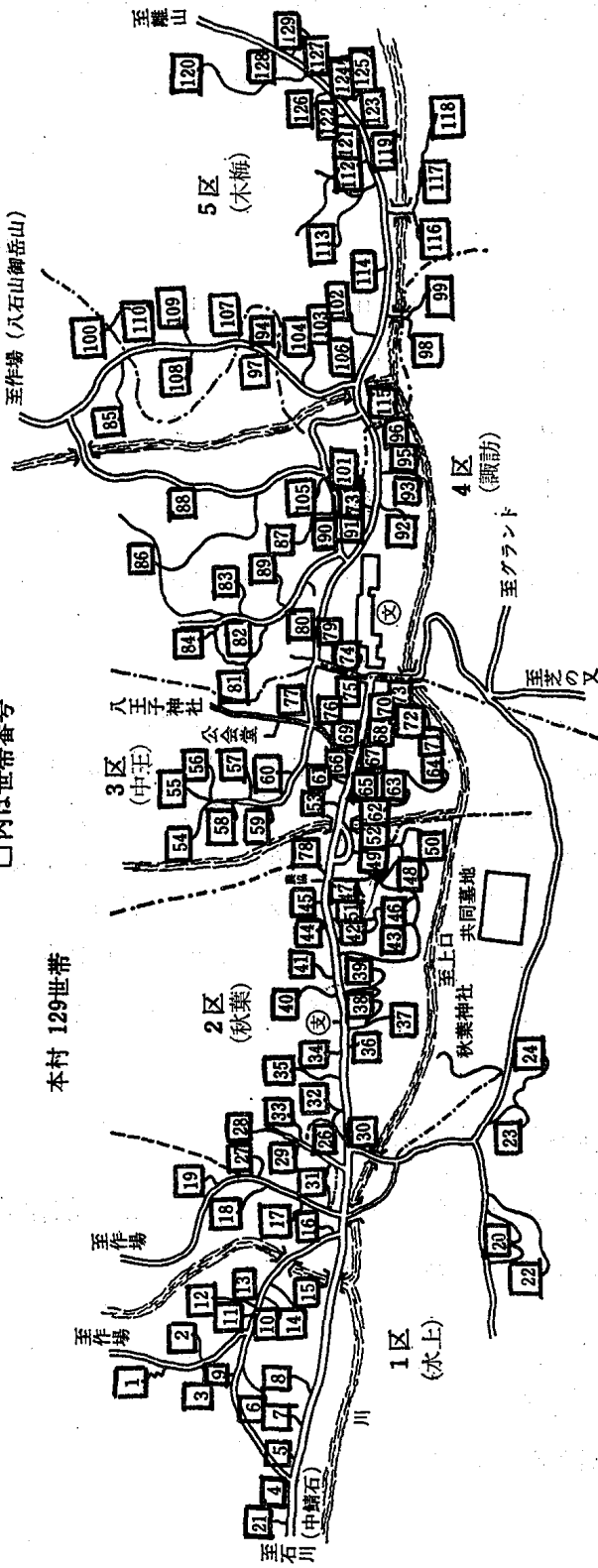
この部落は、第3表および第2図にみられるように、本村と二つの分村からなり、7区に分けられている。通常、本村では、1区、2区～5区といい、離山と芝の又は区と呼ばないで、そのまま離山、芝の又という。また、各区を名称で呼ぶ場合は、水上、秋葉、中王、諏訪、木梅、離山、芝の又という。

この部落の総世帯数は183戸で人口は933人であるが、第4表にみられるように6つの姓のみからなり、最近加わった3世帯を除くと4つの同族（中村、飯田、内山、安沢）によって村が構成されていることがわかる。

調査中、筆者が小高い所から調査者の一人である中村に連絡をとるため、本村に向って「中村くん」と呼んだとき、実に多くの部落の人が筆者の方を振り返ったのでびっくりした経験がある。また、世帯主の名前を告げてその家の場所を尋ねても同姓が多いために、どの家の人であるかを区別できない人が多かった。中村姓は本村だけで85戸あった。これを区別するために各家には屋号がついており、部落の人は屋号によって家を区別し、例えば、屋号「まさえん」の家の主婦に会う場合には、「まさえんのカーチャン」といって尋ねると通りがよい。但し、「カーチャン」の発音は、「カー」の部分にはアクセントがなく、「チャン」の方にアクセントをつけないと他所者となる。

第 2 図 新潟県刈羽郡小国町八王子 (旧山横沢村)

183世帯(1963.8現在)  
□内は世帯番号



第4表 新潟県刈羽郡小国町字八王子・同族構成（昭和38年8月現在）

姓	地区	本村	離山	芝の又	合計
		戸	戸	戸	戸
中	村	85	0	13	98
飯	田	34	5	1	40
内	山	10	0	19	29
安	沢	0	14	0	14
大	橋	0	0	2	2
中	沢	1	0	0	1
合	計	130戸	19戸	35戸	184戸

口伝によると、中村氏の祖は八石城主毛利氏の臣であるといわれているが、屋号は一族の身分階級や職業を反映している。(第11表参照) 中村の宗本家の屋号を「御前」というが、これは「御前様」のことであり、その第一分家の「清左えんどん」は「清左衛門殿」の俗称で、「かたつけ」は染屋の形つけから来ていて「染屋」であることを示している。大工の家でも、棟梁の家の屋号は「大工どん(殿)」と殿呼ばわりしてある。分家にも家格によって「新宅」と「家持」の区別があり、嫁の方が財産を多く持ってきてできた分家を「寄り合い家持」と呼んで区別している。

第3図は、八王子部落住民の性別年齢構成を示す。

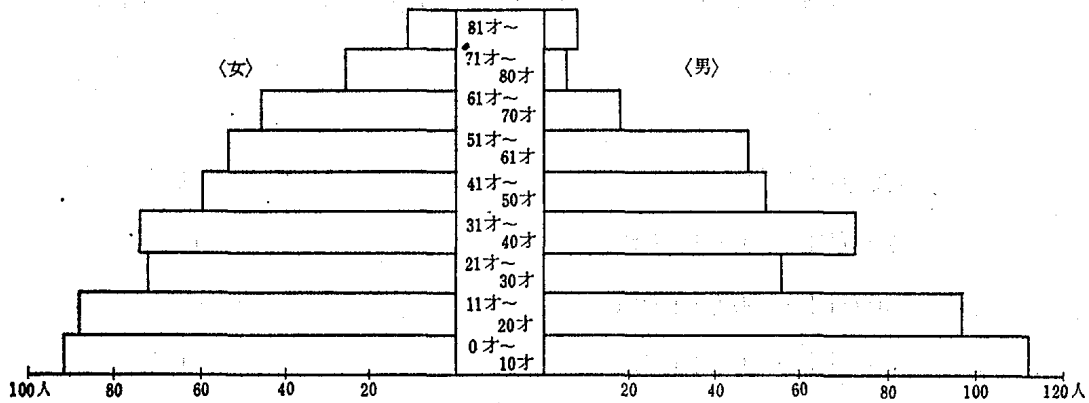
第4図は、学歴構成を示す。小国町町長の話によると、この部落の進学率は小国町の中では昔より高かったとのことである。

第5表は、職業構成を示す。

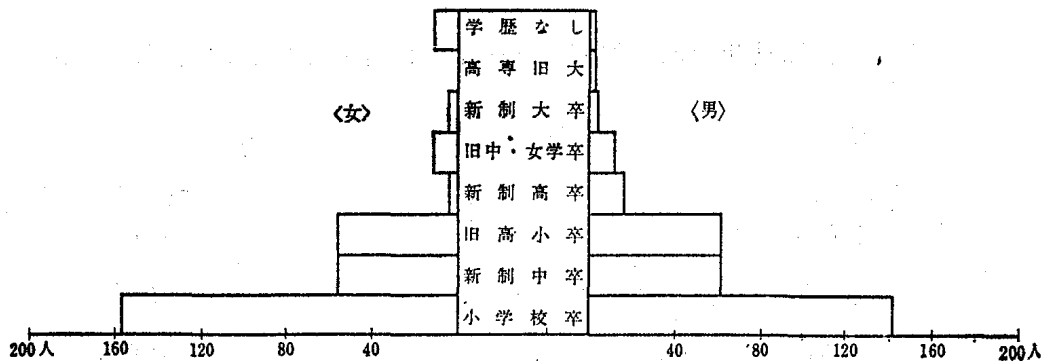
第6表は、年間総所得構成を示す。

第7表は、各戸資産の部落構成を示す。

八王子住民の収入源は、一に米、二にカイコ、三に出稼ぎである。米1



第3図 年齢構成 (昭和38年8月現在)



第4図 学歴構成 (昭和38年8月現在)

第5表 新潟県刈羽郡小国町字八王子・職業構成 (昭和38年8月現在)

職 種	性 別		合 計
	男 性	女 性	
農 業	271 名	112 名	383 名
公 務・職 員	16	6	22
商 業	4	0	4
そ の 他	9	2	11
無 職	11	29	40

その他には、獣医1名、屋根職1名、畳職1名、左官職1名、運転手3名、新聞配達1名、製材業1名が含まれる。

第6表 新潟県刈羽郡小国町字八王子，昭和47年度年間総所得構成

総 所 得 額	戸 数
20万円未満	73戸
20万円～ 40万円未満	97戸
40万円～ 60万円未満	10戸
60万円～ 80万円未満	4戸
80万円～100万円未満	1戸

小国町役場税務課調べ

第7表 新潟県刈羽郡小国町字八王子，昭和47年度各戸資産構成

資 産 額	戸 数
20万円未満	47戸
20万円～ 40万円未満	76戸
40万円～ 60万円未満	46戸
60万円～ 80万円未満	8戸
80万円～100万円未満	2戸

小国町役場税務課調べ

俵5千円，カイコ 1kg 857円で計算すると，村全体と各戸平均の収入はつぎのようになる。

米：約2,750万円（一戸平均 約14万9千円）

カイコ：約 900万円（一戸平均 約5万2千円）

また，

出稼ぎ：約5,600万円（一戸平均 約10万円）

米とカイコの各戸の供出高は第8表のごとくであった。

つぎに3番目の収入源である出稼ぎの職種と人数をみると，第9表のご

第8表 農家別の田と畑の作付反別、米とカイコの供出高、米の場合は  
(俵)、カイコは (kg) 新潟県刈羽郡小国町字八王子(昭和38年)

屋 号	世帯 番号	氏 名	田の作付別			畑の作付別			米の 供出 高	カイコ の供出 高		
			反	畝	歩	反	畝	歩	俵	kg		
		峠	1	中村長太郎	5	1	0	1	5	0	21	58.6
茂		三郎	2	中村作一郎	3	4	5		5		0	0
万		吉	3	中村 光勇	5	8	1		7		9	0.
茂		ざ え ん	4	中村子之一	5	1	0		8		22	57.2
さ		え ん	5	飯田 興一	6	5	9		8		6	42.5
富		三郎	6	内山富三郎	6	4	8		7		29	89.9
千		之 亟	7	内山午之丞	4	5	0		7		24	98.5
さ		く ぞ う	8	内山敬三郎	5	9	8		3		7	0
ま		ご え ん	10	内山徳三郎	7	0	0	1	2		35	63.0
上		の 坂	9	中村 作一	2	8	8		5		2	57.9
す		っ つ え ん	11	内山賀藤治	3	2	4		9		0	0
じ		ょう しょう べ え	12	中村 義則	4	0	3		6		11	60.5
六		ぜ ん	13	内山準一郎	6	7	6	1	12		22	54.6
万		ぞ う	14	飯田 栄	6	5	7		8		42	0
音		五 郎	15	飯田 秀雄	5	0	5		8		20	77.2
忠		べ え	16	飯田 清	4	5	7		5		17	21.8
六		郎 え ん	17	中村 増栄	5	4	5	1	0		29	152.0
そ		う ぜ ん	18	飯田 恵吉	4	7	7		7		11	0
か		え ん ど ん	19	飯田 武男	5	9	3		8		15	19.8
向		坂(ムコウザカ)	25	中村 栄作	3	5	9		5		13	71.7
堂		の 下	20	中村 庄栄	8	4	7	1	0		42	128.0
甚		ざ え ん	21	飯田信一郎	8	4	9	1	2		34	131.3
川		島	22	飯田 誠一	3	8	2	1	0		2	43.2



コミュニティ・コミュニケーション・システムの構造

屋号	世帯番号	氏名	田の作付別			畑の作付別			米の出高	カイコの出高
			反	畝	歩	反	畝	歩		
弥三えん(ヤサイエン)	24	飯田 力弥	5	5	6		8	19	53.1	
ほりどろし	23	飯田 栄男	6	7	4		8	31	63.1	
彦助	26	飯田 逸栄	7	1	5	1	0	21	46.7	
		小計(26名)	143	5	3	21	0	484	1390.6	
		[秋葉区] [2区]								
かつぼだ	28	飯田 三次	5	2	0	1	0	17	55.4	
喜平	27	飯田 喜平	6	1	7	1	0	21	132.4	
げんしろ	29	飯田 千治	4	3	4		5	15	14.0	
ひょうぜん	31	飯田伊勢男	7	2	1		8	23	77.6	
かすけ	36	飯田兼一郎	6	1	2		6	18	0	
せきえん	32	飯田 鉄治	6	3	2		7	23	133.1	
うるしばたけ	33	内山 忠幸	3	7	3		4	22	0	
上の山(ウエノヤマ)	35	飯田 敏郎	7	4	2	1	5	52	85.6	
でん吉	34	中村 清治	7	7	2		8	28	156.3	
大上(オオイ)	40	飯田 清水	4	3	5		8	20	18.2	
新舎(アタシヤ)	38	中村 隆美	5	4	6		8	15	168.1	
金助	36	中村 賢二	7	8	6		5	29	0	
ひかげのいもち	37	内山民五郎	3	8	9		4	10	36.4	
やござえどん	41	飯田 菊二	9	9	1	1	2	49	88.7	
そうせいじ	39	中村 与吉	6	1	8		8	31	21.2	
こぜえん	43	飯田 只二	3	0	8		5	10	0	
天上山田	42	内山 長栄	7	7	3	1	5	27	165.8	
ひかげ	44	内山 一郎	3	5	0	1	5	2	7.7	
こ助	45	飯田安太郎	8	9	2	1	0	62	50.0	
とろぜん	47	飯田 清松	8	0	7	1	0	61	149.5	

屋 号	世帯 番号	氏 名	田の作付別 反 畝 歩	畑の作付別 反 畝 歩	米の 供出 高	カイコ の供出 高
七 べ い	46	中村徳太郎	7 0 2	1 0	俵 32	kg 124.5
な か え ん	48	飯田 兼平	7 6 6	8	32	82.6
と も え ん	49	中村 政太	4 9 3	5	27	0
じ ぜ ん	50	中村 徳治	6 6 3	5	24	0
		小計(24名)	149 4 2	20 1	650	1567.1
		{中 王} {3 区}				
滝 の 上(タキネ)	51	中村 栄吉	8 5 5	2 0	52	227.1
む か い	52	中村 力夫	4 3 6	5	20	58.6
五 へ い	59	中村 吾作	7 7 2	1 0	51	130.6
おおきのいもち	58	中村久次郎	6 7 5	2	25	0
したやしき	54	中村 辰男	20 0 3	2 5	110	168.4
はちろうぜん, 屋敷	55	中村 正作	9 0 0	2 0	49	115.9
久 助(キュウスケ)	56	中村 和吉	12 0 7	2 0	68	144.0
久助のいもち	57	中村 作二	7 9 4	1 0	55	0
こ う じ	60	中村 周治	4 3 4	1 0	16	35.3
こ え ん	69	中村 勝栄	1 9 0	4	0	0
向 山	70	中村 俊作	3 1 5	1 0	0	41.3
坂	73	中村 定吉	4 0 9	4	8	0
は ち え ん	72	中村伊之一	4 9 4	1 0	17	72.1
は ん じ ろ う	75	中村定之助	7 8 7	2 0	40	99.4
堀 ぼ た	74	中村 治作	3 8 9	1 5	15	62.0
林 ぞ う(リンゾウ)	76	中村倉之助	3 4 0	4	5	0
あ さ ぼ た け	77	中村健太郎	8 8 3	2 0	59	181.8
ますえんどん	61	中村 堅作	1 2 0	1 5	0	84.6
せいぜんどん	53	中村 清一	7 2 0	1 5	11	0

コミュニティ・コミュニケーション・システムの構造

屋号	世帯番号	氏名	田の作付別			畑の作付別			米の出	カイク
			反	畝	歩	反	畝	歩	高	の高
ちゅうべい	63	中村 長松	5	3	6	1	0		俵 25	kg 0
忠ぜんどん	62	中村 源一	2	3	5	1	5		2	0
しょうぜんどん	65	中村 真一	6	7	5	1	0		17	141.1
ずぜんのいもち	64	中村 菊二	3	2	6		2		3	0
あやめ	67	中村善之丞	10	0	8	2	0		60	333.6
六十郎	66	中村 三吉	2	9	8	1	0		10	0
ばんきち	68	中村 良作	2	6	7	1	0		0	62.7
しみずや	78	飯田智太郎	1	5	0	1	0		0	0
たへえい	111	中村 一二	5	0	1		8		26	0
大倉(オオグラ)	71	内山虎三郎	2	7	5		2		5	0
		小計(29名)	169	9	4	33	6		749	1958.5
		{諏訪区}								
		{4区}								
したいぼな	89	中村 保房	6	4	2	1	0		33	50.6
前田	79	中村 庄衛	12	7	4	1	5		52	119.2
清次郎	80	中沢清次郎	5	0	0	1	0		19	32.9
そうべいいんきょ	82	中村 石造	10	8	4	1	0		68	141.8
田中	83	飯田 虎治	5	1	1	1	0		20	0
ぎえん	84	中村 銀二	7	1	6	2	0		28	94.8
せんじろう	81	中村 虎一	6	5	7	1	0		18	31.8
ごろすけ	85	中村 仙吉	6	5	7	1	0		28	0
よえんどん	86	中村 敏彦	4	5	9	1	0		20	18.9
あらやしき	87	中村 栄松	4	7	0		5		22	0
さんだい	88	中村 清松	3	0	8		4		6	45.8
惣べい	90	中村 惣平	11	6	3	2	0		77	153.2
くぼやしき	91	中村 保	1	7	8	1	0		5	0

屋 号	世帯 番号	氏 名	田の作付別			畑の作付別		米の出	カイク
			反	畝	歩	反	畝	高	高
金 次 郎(キンジロウ)	92	中村 由二	9	7	2	1	0	60	23.7
と う 吉	93	中村吾平治	7	3	0	1	5	45	155.7
つ か だ	94	飯田 豊秋	5	8	9	1	0	28	37.4
ぶ ん 吉	95	中村文一郎	4	3	2		5	13	34.2
か た つ け	96	中村 国雄	4	6	0	1	0	10	48.9
佐平治のいもち	97	中村 梅吉	7	1	8	1	5	35	138.1
田中のいもち	98	飯田 勇	2	6	9		5	4	30.9
川 向 う	100	中村駒次郎	2	0	9		3	6	0
ご ろ う え ん	99	中村 善作	5	1	9	1	0	20	26.3
		小計(22名)	134	1	7	25	0	616	1885.8
		{木 桜} {5 区}							
せ ん べ や	101	中村 兼平	3	7	3	2	0	5	0
も ん べ い	116	中村 作栄	12	0	8	2	2	56	108.3
じ ん べ い	103	中村 岩松	6	3	7	1	0	41	47.0
こ う じ や	106	中村 安治	5	3	2	1	0	40	0
ご ん し ち	102	飯田 弘二	4	2	5		8	11	13.7
ち ょ う す け	104	飯田 三吉	6	8	0	1	0	41	53.3
さ へ い じ	108	中村 仁助	9	1	7	1	0	60	157.3
わ ゴ	107	中村 伊吉	5	9	3		8	28	0
さ ん す け	109	中村藤吉郎	8	0	6	1	2	25	89.6
大 平(オオダイラ)	110	飯田 米平	1	9	7		5	4	0
彦 え ん	112	中村銀太郎	8	7	1	2	0	49	70.9
十 べ い	113	中村 重作	7	0	0	1	0	27	31.4
い わ や し き	114	中村 喜作	8	4	3	2	0	50	117.6
ま す ぞ う	115	中村 淳二	5	5	1	1	0	24	0

コミュニティ・コミュニケーション・システムの構造

屋号	世帯番号	氏名	田の作付別			畑の作付別			米の出高	カイコの出高
			反	畝	歩	反	畝	歩	俵	kg
石屋	122	中村 吉春	7	6	5	1	0		39	81.7
いんきょ	120	中村英三郎	5	5	5		8		27	34.7
じんべいのいもち	118	中村 静市	4	8	0		8		17	0
もんべい	116	中村 進	5	3	4	1	0		29	56.8
ひこえんのいもち	119	中村 正	3	7	4		4		6	0
やそуж	117	中村 真助	4	4	3	1	0		23	52.9
おきなわ	121	飯田 午作	1	2	0		3		0	0
へいきち	123	中村 平吉	7	0	6	1	0		40	86.7
さんすけのいもち	125	中村 才二	5	7	1	1	0		27	30.8
まさのすけ	124	中村 俊一	6	4	3	1	0		30	0
すぎのすけ	127	中村 秀二	5	0	1		8		22	0
さんすけのいもち, さくじのいもち	126	中村 作治	5	2	5		5		35	0
岩山(イワヤマ)	128	飯田 丈作	7	3	7	1	0		13	70.2
さしち	129	中村 忠昭	7	3	4	1	0		31	74.5
		小計(28名)	170	2	1	29	1		800	1177.4
		[離山] [6区]								
仁えん(ニエン)	H 1	飯田仁一郎	9	1	4	1	5		57	128.6
たけぞう	H 4	安沢 猛一	13	1	8		5		95	0
一郎えん・重えんどんの新宅	H 5	安沢一之助	12	7	7	3	0		77	152.9
一郎えんのいもち, 新宅のいもち	H 9	安沢 正隆	5	5	8		5		30	30.0
きそうべえどん	H 6	安沢 高治	11	7	8	3	0		65	7.66
又助	H 2	飯田 清作		4	0	2	0		0	72.9
じゅえんどん	H 8	安沢 重栄	10	2	0	2	0		66	119.5
おうしょう	H17	飯田 藤治	9	2	9	1	0		65	104.6
ぜんぱち	H10	安沢 隆司	10	3	0		8		65	81.5

屋 号	世帯 番号	氏 名	田の作付別			畑の作付別			米の	カ
			反	畝	歩	反	畝	歩	出高	イコ の出高
			反	畝	歩	反	畝	歩	俵	kg
ち ょ う 七	H15	飯田 酉造	5	1	3	5			20	81.9
し ろ べ え	H14	安沢芳太郎	7	4	4	1	0		35	94.1
お く し ち	H13	安沢 由基	11	6	7	2	0		47	128.4
え ん ね ん ど ん	H11	安沢 武徳	13	6	1	2	0		96	51.2
九 郎 べ え	H12	安沢 庄市	5	1	0	1	0		30	29.8
ろ く え ん	H16	安沢 榮森	10	1	7	2	0		58	143.9
ちよえん, ちゅういん	H 3	安沢 熊吉		5	8	1	0		0	334.5
み ね	H19	飯田 守平	7	6	4		5		50	115.6
や し き	H18	安沢 欽一	6	7	4		4		36	32.7
きそうべえどんのいもち 竹林(タカバヤシ)	H 7	安沢 正男	5	8	7		5		25	55.5
		小計(19名)	166	6	1	25	2		917	1834.2
		[芝ノ又] [7 区]								
		中村 一夫	5	7	8	1	0		35	0
		中村 博純	7	6	1	2	0		51	0
いなばのいもち	S 4	大橋 政治	5	0	1		5		34	0
なかやしき	S 5	中村義四郎	3	2	2		5		23	85.4
げんじ, げんさ	S 3	中村 元二	2	8	1		2		24	0
い な ば	S 6	大橋 隆治	7	8	0	2	0		57	0
とうべえのいもち	S 7	中村 真治	6	6	3	1	5		35	71.1
はやしなか	S 8	中村 兼治	8	0	0	1	5		45	73.7
又じえん(マタジエン)	S 9	中村 高一	5	2	0	1	0		42	21.0
かくぜんどん	S10	中村 哲勇	8	2	8	2	0		58	25.4
まんたい, 宮下(ミヤシ タ)	S11	内山辰太郎	6	0	0	1	5		25	0
だ え ん ど ん	S12	内山誠一郎	6	3	7	2	0		30	134.1
家 の 下	S13	内山孝一郎	8	2	4	2	0		50	48.4

コミュニティ・コミュニケーション・システムの構造

屋号	世帯番号	氏名	田の作付別			畑の作付別			米の出	カイク
			反	畝	歩	反	畝	歩	俵	kg
あさじろう	S15	内山浅之丞	7	5	6	2	0		44	70.4
さくぜえん	S16	内山 義輝	7	8	0	2	0		39	95.3
大工どん(ダイクドン)	S17	内山 信一	11	1	1	2	0		69	53.2
		内山 良三	4	1	5	1	5		13	100.7
向山(ムコウヤマ)	S18	内山 和治	5	1	9	1	0		33	78.2
しばた	S19	内山 真雄	6	2	0		8		35	50.0
りぜえん	S20	内山芳太郎	5	7	0	1	5		30	43.7
とほち	S21	中村虎之丞	8	1	3	2	0		62	21.9
うすんぞう, うしみず	S22	中村富太郎	5	8	0	1	0		25	0
とくえのいもち	S24	内山 真作	9	8	9	1	5		58	64.5
おけやのいもち	S23	内山 米蔵	8	8	9	1	5		50	46.5
おけや	S25	内山 久一	4	7	1	1	0		5	19.1
だえんどんのしんたく, しんたく	S33	内山 米作	6	0	0	2	0		38	80.5
とくえん	S26	内山 徳一	5	8	9	2	0		13	66.0
へえん	S28	内山 平作	5	3	7	1	0		12	35.9
おてんじょう	S29	内山金次郎	9	5	8	2	0		53	0
へえんのいもち	S30	内山 富次	5	9	4		8		22	42.5
しんしょうえん	S27	飯田 武	4	6	1		5		24	47.0
とうぞう, かみのいもち	S34	内山 一夫	4	7	0	1	0		25	0
さくじろうのいもち (義作)	S31	中村 義作	8	3	1	1	5		52	47.0
さくじろう	S32	中村 惣作	4	9	0	1	0		25	61.9
ぐぜえんのいもち	S35	中村 春吉	1	2	4		2		7	0
		小計(35名)	222	6	2	47	5		1241	1483.4
		総計	1145	6	0	201	8		5457	10,597.0
		一戸平均	6	0	4	1	1		29.8	61.1

第9表 新潟県刈羽郡小国町字八王子からの出稼ぎ職種（昭和38年12月現在）

職 種	人 数	主なる出稼ぎ地
酒 造 り	82	愛知県, 長野県
石 焼 芋	14	東京
漬 け も の	11	群馬県
鉄 工 場	7	東京・川崎
魚 市 場	2	東京
か ま ぼ こ 製 造	1	群馬県

第10表 新潟県刈羽郡小国町字八王子のマス・メディア所有状況  
（昭和38年の8月と12月）

月 メディア	昭和38年8月現在	昭和38年12月現在
新 聞	購 読 率 71%	本 村 29戸 購読率 19% 離 山 10戸 芝の又 0戸
ラ ジ オ	所 有 率 82%	所有率 82%
T. V.	所 有 率 48%	本 村 97/129 所有率78% 離 山 19/ 19 芝の又 29/ 35

新聞は、毎日（47紙）、新潟日報（32紙）、産経（22紙）、読売（16紙）、朝日（9紙）、日経（2紙）、農事新聞、聖教新聞（各1紙）。

とくである。

ところで、八王子における新聞、ラジオ、TVの普及率を昭和38年8月と同年12月の2回についてみると、第10表のごとくであって、部落の働き手が大部分出稼ぎに出てしまう冬期とそうでない夏期とでは相違している



ことに注目しなければならない。

8月現在においても「テレビを買ったから新聞をやめました」という人があったが、11月にはいると、主人が出稼ぎに出て留守だから新聞をやめたという人がでてくる。また、つぎの事情があった。

それまで7年間も新聞配達をしてきた飯田米平氏（大平）が健康上の理由から退職したのを契機に新聞購読者が全く少なくなった。そのため、11月からは、町役場支所の小使さん（飯田秋作氏）が配達することになった。小使さんは本庁との連絡のため、毎日、小国町まで行くので、そのついでに新聞をもってきてもらうことになった。冬期に雪の道を芝の又、本村、離山と廻ることは、新聞の数は少くとも1日を要する。そこで芝の又は、小国町から本村へはいる入口の家（中村一夫氏：九ぜん）に新聞をまとめて置き、購読者がそこまで取りに行くことにした。しかし、芝の又の人々は面倒になり全戸やめてしまった。本村については、支所の小使さんが配達し、離山に対しては、学校に新聞をまとめて届け、購読者の家の生徒が下校の時持ってかえることになった。小使さんが本庁のある小国町へ行くのは朝9時か10時であり、帰りに持ってくるので、朝刊の配達されるのは、午後2時か3時になった。

テレビの普及は、昭和38年8月から12月までに、普及率48%から78%に上昇し目ざましいが、当地での販売方法は、富山の配置薬方式でおこなわれ、代金回収は、秋の収穫時以後でよいからということで、各家庭に取り付けていく、また、この普及現象には、われわれが8月にテレビの普及過程調査をおこなったことが大きな影響を与えているという村民もあり、調査そのものの影響が村の状態を変えていくことを看過できないことを痛感している。しかし、これは特殊な Input コミュニティ・コミュニケーションの影響として考察すればよいのであって、コミュニティ・コミュニケーションの概念の中に統合されて、検討されるものである。さて12月現在では、テレビ受信機のはいっていない家は、子供のない家や受像の困難な家という状態であった。

電話は、学校、農協、支所の三ヶ所と、本村の岩山（飯田丈作氏）、離山の一郎えん（安沢惣太郎氏）、芝の又のしばたまたわ下の家持（内山貞雄氏）

の各家に設置され、これらは村内の公衆電話の役割を演じている。これらの電話は、小国町中里局の管轄であって、この局内での通話は無料、そのため、農協、支所、学校などは小国町の関係先へ絶えず連絡をとっている。但し、農協、支所、学校の電話は一回路線であるため、一ヶ所の電話が使用されていると他の電話は不通となる。

本村の場合、岩山の公衆電話だけでは、呼び出しが大変なので、1区と2区にある家へ電話する場合は支所へ、3区は農協へ、4区にある家へかける場合は学校へ、5区の場合は岩山へかけて呼び出してもらおうというように範囲が決められている。呼び出し料金は10円也と決められ、離れ山と芝の又の場合は、呼び出し料金15円也と決められている。

郵便については、八王子は特別配達区域になっているので速達は扱われていない、郵便配達人は、七日町郵便局から1日かかりで配達にくる。

配達人によると、1日平均70通くらいの手紙が部落にはいってくるということで、宛先は主に学校、農協、支所関係の公文書類で、二番目に多いのが株式を持っている人たちへのもの、残りが普通郵便である。また、八王子から外部に出ていく手紙の数は1日平均約50~60通で、宛先は、ほとんど関東、東海地方である。

昭和12年に刊行された「小国郷土誌」<sup>ごうど</sup>は、当時の八王子（山横沢村）の農業発達状況についてつぎのように述べている。「四面山に囲まれ田畑も山峡斜面を開墾したものであるから、平地の人には想像出来ぬ多くの労力を掛けてくるものである。而かも降雪早く融雪が遅いから播種、植付共に遅れて、米作が主体であるが、増収は望まれない状態にあるのである」また、戸数に関しては「本村は小国郷より独立し交通不便なる山間にあるが為、他町村と比較すれば不遇の立場にありながら、戸口の増加は差したる遜色はないものであ。之れは畢竟村民の勤労に依り山地を開墾し、これをよく利用する所に依るものと考えられるのである」と述べている。

#### 4. Intra コミュニティ・コミュニケーション

第1表の中に記載した Intra コミュニティ・コミュニケーション空間における諸関係と諸組織について述べる。

4・1 諸関係 日本農村における本家分家関係、地主小作関係は、後者において農地解放とともに、前者においては階層構造の分解とともに、消えたごとくみえるが、住民の意識の中に潜在し、種々の行動に顕在化する底流的影響は看過し得ないものである。

とくに冠婚葬祭における行動規制は依然として根強い。たとえば、八王子では、冠婚葬祭における席順に関してしばしば問題が起っている。第11表は、八王子住民の本家分家関係一覧表である。これは昭和38年現在における活きた本家分家関係であって、本来的な形とは幾分の変化がみられる。

たとえば、「小国郷土誌」（昭和12年刊行）によると、本村の中村氏の「宗家通称オンマイは明治22年北海道後志忍路郡塩谷村に移住し、現在の本家格は清左衛門と称し現戸主は中村敬一氏」（昭和12年現在）とあり、「別に庄屋を勤められた家がある。庄屋繁治、庄屋彦左衛門等の書類あり。現戸主は中村丹治氏。両派合せて90戸」とあるので、第11表にみえるように現在、中村丹氏の家を御前と呼んでいるのは、この両派の合同とともに、庄屋を宗家の通称オンマイで呼ぶようになったものと思われる。

また、本村の飯田氏については、「宗家を与三右衛門といふ、現戸主飯田元吉氏。別に神道を奉ずる一派がある。宗家を新屋敷といふ。現戸主は飯田覚太郎氏。両派合せて38戸」とあるが、第11表中には新屋敷は見当らない。

さらに、本村の内山氏については、「宗家を孫右衛門と称し現戸主は内山子之吉氏。一族9戸」とあるが、第11表でみられる通り、現在、内山氏の宗家は没落後、かえんどん（飯田武男氏）の奉公分家となっている。

分村・芝の又の中村氏については、「通称<sup>かくざえん</sup>角左衛門、本村の庄屋の分家



現戸主中村邦治氏、一族10戸」とある。また、芝の又の内山氏については、「通称代右衛門、現戸主内山菊治氏、一族19戸」。

つぎに、離山の安沢氏については「通称重右衛門、現戸主安沢重太郎氏、一族14戸」また飯田氏については「通称オウシヨウ、現戸主飯田仁太郎、一族4戸」と記されている。

離山の飯田氏については、第11表にみられるように現在は、本家・分家が逆転し、4戸中の1戸が消滅している。

第11表にある本家・分家関係の認識が昭和38年度における八王子における冠婚葬祭に際しての住民の行動を規定している。

たとえば、本村の飯田氏の例をとると、もし、川島の飯田誠一氏宅から葬式が出た場合、弥ごぜんどん、かえんどん、惣左えん、権七の家は参加するが、かえんどんの分家の、上の山、ろくぜん、孫えんは参加しない。

つぎに、葬儀の控簿を転写して、葬儀参加者の関係をみることにする。

つぎの控は、久保屋敷の戸主、中村保氏の祖母ミキさんの葬儀に際して記録されたものである。

(註) この部落では、以下に記載する仏式葬儀の外に、神式の葬儀を行う集団があり、清左えんどんの中村清一氏の母の葬儀に関する控帳〔故中村ヒデ命<sup>ミコト</sup>神院時米・香典其他扣帳〕その他があるが本稿では割愛する。

香資明料齋米其他控 (但し [ ] 内は筆者註)

浄善妙眼大姉 享年69歳 俗名 中村ミキ

昭和30年10月19日没 [清瀧寺壇徒]

同月21日葬儀執行 施主 中村保 [久保屋敷]

[氏名の配列は記帳順・(屋号)	・ 関係	]
中村 庄栄 [(堂の下)	・ 親せき・本家	]
中村 銀蔵 [(彦えん)	・ 分家仲間	]
中村 兼平 [(せんべや)	・ 近所付合・	]
中村庄三郎 [(前田)	・ 親せき・分家仲間・	]
中村 作平 [(藤吉)	・ 近所付合・せんべやの分家	]

コミュニティ・コミュニケーション・システムの構造

中村藤吉郎	〔(三助)	・小作	〕
中村 栄吉	〔(滝の上)	・	〕
中村金次郎	〔(金次郎)	・近所付合	〕
中村 優	〔(峠) <sup>マサル</sup>	・親せき・川島の親せき	〕
内山 忠幸	〔(うるし畑)	・小作	〕
中村 吉春	〔(石屋)	・小作	〕
中村 長衛	〔(与えんどん)	・親せき・中村ミキの主人の弟	〕
中村善之丞	〔(あめや)	・出入り	〕
中村文一郎	〔(文吉)	・親せき・小作	〕
中村惣平エ	〔(惣べえ)	・近所付合	〕
中村 周治	〔(こうじ)	・作女	〕
中村杉之助	〔(杉之助)	・出入り	〕
中村倉之助	〔(林蔵)	・親せき・分家仲間	〕
内山誠一郎	〔(だえんどん)	・親せき・保の母(中村セン)の実家	〕
飯田 仲二	〔(弥ござんどん)	・親せき・中村センの妹の主人・柏崎在住	〕
飯田 栄吉	〔(上の山)	・親せき・中村ミキのいとこ	〕
中村 源一	〔(忠ぜんどん)	・親せき・	〕
中村 清作	〔(又助)	・作男・	〕
内山 米作	〔(だえんどんの新宅)	・親せき・中村センの叔父	〕
中村 政市	〔(まさえん)	・親せき・保の妹	〕
飯田 順二	〔(川島)	・親せき・中村ミキのいとこ、 保の嫁の実家	〕
内山 政美	〔(屋敷)	・親せき・だえんどんの分家で幼な友達	〕
飯田 富次	〔新潟在住	・親せき・保の嫁・静子の 妹むつ子の嫁ぎ先の主人	〕
中村 作一	〔(上の坂)	・親せき・中村ミキの妹が作一の母	〕
飯田 周作	〔新潟在住	・富次のオジ・保さん方から借金	〕
中村 清孝	〔(すわばら)	・親せき・清孝の父の弟が保の家へ養子	〕
飯田弥三治	〔(弥ござんどん)	・親せき・弥三治の妻がミキのいところで 保の妻・静子の叔母	〕
飯田 豊秋	〔(つかだ)	・近所付合・	〕
若山 正明	〔岡野町小学校教頭	・保の叔父が岡野町小学校校長	〕

以下は村の手伝い人 明料 拾円～二十円を供える.

〔村は上と下に分けられ、下に属する中村保家には、下の区域の人びとが葬儀を手伝う〕

中村 竹治	飯田 虎治	飯田 丈作
中村多兵衛	飯田久一郎	中村 治作
中村五郎助	中村 義一	中村己代治
中村仙次郎	中村佐久治	中村 栄松
中村 仁助	飯田 三吉	中村伊之一
中村 平吉	中村 勝栄	中村 仙次
中村 貞一	中村 伴吉	飯田 勇
中村 貞助	中村 吾作	中村健太郎
中村 国雄	中村 清松	中村 静市
中村貞之重	中沢精次郎	中村 石造
中村 保房	内山 虎三	内山富三郎
中村 淳二	中村 重蔵	内山午之丞
中村 宇吉	飯田 弘二	中村定之助
中村 和吉	中村 岩松	
中村 作治	中村六十郎	
中村 金蔵	中村 佐七	

香料明料 合計 金 壹万壹千四百円

齊米 計 四斗六升

豆斗 計 貳斗貳升

以下は葬儀以後 壇払い以前までに来た人

山賀 武〔岡野町小学校〕	飯田 逸栄〔
大倉 徳平〔	中村 乙松〔
教員住宅一同〔	飯田 鉄治〔
白井 正武〔大洲校〕	中村 喜作〔
内山 義輝〔	中村 梅吉〔
内山 邦治〔	中村 安次〔
内山孝一郎〔	中村 俊作〔
中村 菊治〔	中村 久治〔
飯田 清水〔	飯田智太郎〔
飯田兼一郎〔	飯田 ソメ〔

コミュニティ・コミュニケーション・システムの構造

中村 米蔵	〔 〕	飯田 米平	〔 〕
飯田 武男	〔 〕	飯田 兼平	〔 〕
安田 ツヤ	〔 〕	中村 堅作	〔 〕
中村佐平太	〔 〕	中村紋兵ヱ	〔 〕
中村 隆美	〔 〕	飯田 睦子	〔 〕
安田 熊吉	〔 〕	内山午之丞	〔 〕
小計 金 貳千貳百貳拾五円			

中村 定吉	〔 〕	中村 正	〔 〕
中村作一郎	〔 〕	飯田 与一	〔 〕
中村辰一郎	〔 〕	飯田勘次郎	〔 〕
飯田 亮〔名古屋市在住〕		中村 光勇	〔 〕
池谷校小中職員一同		中村 善作	〔 〕
飯田 清松	〔 〕	安沢 武徳	〔 〕
安沢 重栄	〔 〕	真柄 光治	〔 〕
中村 孝作	〔 〕		
総計 壹万五千八百七拾五円			

葬儀執行役配

1. 饗応方	中村 庄栄	〔(堂の下)〕
	中村 義郎	〔保の叔父〕
	内山誠一郎	〔(だえんどん)〕
	中村 清孝	〔(すわばら)〕
1. 庖丁方	中村五平次	〔(藤吉)〕
	中村 栄吉	〔(滝の上)〕
	飯田 菊治	〔(やごぜんどん)〕
1. 煮方	中村杉之助	〔(杉之助)〕
	中村倉之助	〔(林蔵)〕
1. 椀方	飯田 豊秋	〔(つかだ)〕
	中村藤吉郎	〔(三助)〕
	中村 作一	〔(上の坂)〕
1. 膳方	中村金次郎	〔 〕
1. 給仕	中村 ヨシ	〔(堂の下)〕
	中村 ナミ	〔(前田)〕
	内山 芳野	〔 〕



1. 水 仕 中村 ヒサ 〔 〕  
                   中村 コウ 〔 〕  
                   中村 ヨシ 〔 〕  
                   中村 キイ 〔 〕  
 1. 茶 番 飯田 シュ 〔 〕  
                   中村 フジ 〕 〔 〕  
 1. 倉 番 中村 作栄 〔 〕  
 1. 台所取締 中村 善七 〔 〕  
 1. 帳 方 中村 堅一 〔 〕

以上通り定む。昭和30年10月19日

同年 10月21日 出棺

<sup>トキ</sup>御齊客並<sup>イロギ</sup>ニ色着

- 色着 中村長太郎 〔 〕  
           中村作一の母 〔 〕  
           飯田 順二 〔 〕  
           中村 庄栄 〔 〕  
           飯田栄吉の母 〔 〕  
           飯田弥三治 〔 〕  
           中村 源一 〔 〕  
           中村 周治 〔 〕  
           中村倉之助 〔 〕  
           中村文一郎 〔 〕  
           中村 兼平 〔 〕  
           中村 清孝 〔 〕  
           中村 長衛 〔 〕  
           中村 政市 〔 〕  
           中村 銀蔵 〔 〕  
           飯田 清作 〔 〕  
           飯田 富二 〔 〕  
           内山誠一郎 〔 〕  
           飯田仲二の母 〔 〕  
           内山 米作 〔 〕  
           中村 栄吉 〔 〕

中村 善七 [ ]  
 中村庄三郎 [ ]  
 中村 惣平 [ ]  
 中村金次郎 [ ]  
 中村 作平 [ ]  
 飯田 豊秋 [ ]  
 中村藤吉郎 [ ]  
 中村 吉春 [ ]  
 中村杉之助 [ ]  
 会葬者 内山 正美 [ ]  
           若山 正明 [岡野町小学校] ]

寺院布施

御曼陀羅料 参千円  
 清 滝 寺 貳千円  
 福 寿 院 千円  
 長 福 寺 千円  
 円 通 寺 千円  
           計 八千円

10月25日 壇拂客

中村長太郎 [	)	中村 宗吉 [	]
中村 作一 [	)	中村 善七 [	]
飯田 順二 [	)	中村庄三郎 [	]
中村 庄栄 [	)	中村 惣平 [	]
飯田 宗吉 [	)	中村金次郎 [	]
飯田弥三治 [	)	中村 作平 [	]
中村 源一 [	)	飯田 豊秋 [	]
中村 周二 [	)	中村藤吉郎 [	]
中村倉之助 [	)	中村 吉春 [	]
中村文一郎 [	)	中村杉之助 [	]
中村 兼平 [	)	内山誠一郎 [	]
中村 清孝 [	)	飯田 清作 [	]
中村 長衛 [	)	内山 忠幸 [	]
中村 政市 [	)		

中村 銀蔵 [ ] 穴堀 中村一 [ ]

昭和31年3月20日 法要執行

即阿茲照居士 三十三回忌  
 紅葉童土 二十三回忌  
 善眼清浄居士 十七回忌  
 積功清徹居士 十七回忌  
 積善清貞大姉 十七回忌  
 浄善妙眼大姉 一回忌

客 芳 名

飯田 誠一 [ ]	中村文一郎 [ ]
中村 庄栄 [ ]	中村 作栄 [ ]
中村長太郎 [ ]	中村 兼平 [ ]
中村 ケエ [ ]	中村藤吉郎 [ ]
飯田 栄吉 [ ]	中村 多平 [ ]
中村 源一 [ ]	中村銀蔵妻 [ ]
中村 善七 [ ]	中村 吉春 [ ]
中村庄三郎 [ ]	中村杉之助 [ ]
中村 周治 [ ]	飯田 清作 [ ]
中村倉之助 [ ]	内山誠一郎 [ ]
中村 清孝 [ ]	飯田 亮 [ ]
中村 惣平 [ ]	真柄 米次 [ ]
中村 長衛 [ ]	飯田 富治 [ ]
中村金次郎 [ ]	飯田 仲二 [ ]
中村 作平 [ ]	清滝寺
飯田 豊秋 [ ]	満吉娘

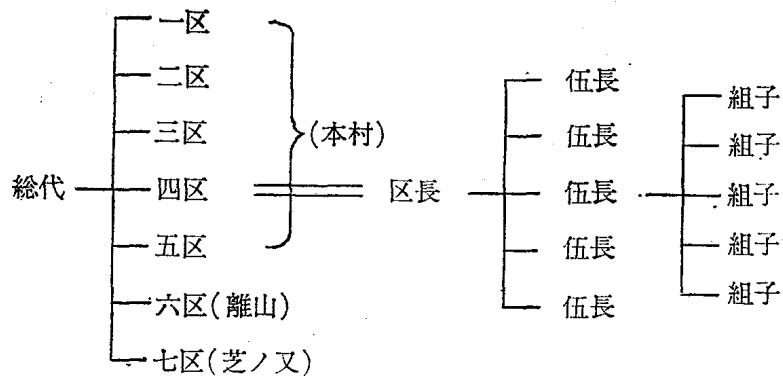
4.2 部落組織

4.2.1 区制 (区組織)

この区制については、定款とか規約がなく、くわしいことは定っていないが、慣例として八王子部落の中心的な役割を果している。すなわち、部落の自治、学校組織、農協組織もこの区が基礎であり、その上で、運営が

なされているのである。

つまり、八王子部落は一区、二区、三区、四区、五区、六区、七区というふうに分けられている。それぞれの長が区長、その代表として総代なるものがある。また各区は、伍人組によって成り立っている。その長が伍長。第5図で示すと、



第5図 区 組 織 図

第12表 区 組 織 役 員

役名	一 区	二 区	三 区	四 区	五 区	六 区	七 区
総代	飯田逸栄 (副総代 内山賀藤治)						
区長	内山賀藤治	飯田清松	中村 真一	中村 銀二	中村 岩松	安沢高治	内山 信一
伍長	中村長太郎	飯田敏郎	中村 栄吉	中村 石造	飯田 三吉	安沢高治	中村 一夫
	飯田 与一	飯田清水	中村 堅作	中村吾平治	中村 仁助	安沢重栄	中村 哲勇
	飯田 武男	飯田菊二	中村 清一	中村 梅吉	中村 午作	安沢由基	内山誠一郎
	飯田 誠一	内山長栄	中村 源一	中村 庄衛	中村 重作	安沢武徳	内山 良三
	飯田 逸栄	内山一郎	中村善之丞	中村 惣平	中村 平吉		内山虎之丞
				中村 俊一			中村 惣作

その機能は

- 総代＝部落予算，決算により事務執行（各区より2名ずつ選衡委員が出て推せんする）
- 区長＝各区への伝達と区のとりのまとめ，予算決算の作成審議，最高議決機関。
- 伍長＝総代からの伝達機関であって，また，部落費の予算決算の審議。

また，部落のいろいろのこと，たとえば，自治のために予算を決めたり承認するために，また問題が起きた場合話し合うために，総会，常会（区の会）伍長会，審議会なるものがある。それぞれの構成と機能を示すと以下のごとくである。

#### 4.2.2 「総 会」

- (イ) 構 成＝全戸
- (ロ) 招集者＝総代
- (ハ) 日時・回数＝毎年4月か5月に1回
- (ニ) 場 所＝学校
- (ホ) 機 能＝部落費の予算，決算，その他の承認。主に審議会で決定したことを承認する機関である。
- (ヘ) 具体例として議案を示すと

総会議案，昭和38年4月10日

1. 37年度部落協議費決算承認について。
2. 38年度部落協議費予算議定について。
3. 新規補助事業について  
芝ノ又分校上敷 10枚 5千円。  
横沢芳ヶ坪大又線農道工事
4. 八王子神社屋根替工事決算報告について。

5. 学校だんろごろの供出について

本村 1尺5寸 5束

両字 1尺 6束

6. 神社・堂世話人について 中村栄吉

7. 昭和38年度日料極について.

8. 地堂割について.

9. その他.

4・2・3 「常 会」

(イ) 構 成=各区の住民

(ロ) 召集者=区長

(ハ) 日時・回数=年何回というふうには定っていないが、毎年春、4月か5月定例会あり; 役員改選, 予算承認, 計画報告が行なわれる。その他は、重要な問題が起った時とか、審議会からの大切な連絡があるとき開かれる。平均して、年10回前後開かれる。

(ニ) 場 所=区長宅, 伍長宅を廻り番で

(ホ) 機 能=審議会の決定事項の伝達と承認。主に、区からの委員, 役員の選出が行われる。

(ヘ) 具体例

常会議案 38年度 (4区の場合)

○ 3月7日 宿, 中村梅吉, 出席者15名

(1) 総代辞任につき, 総代選衡委員選出の件

選衡委員 中村惣平, 中村銀二

(2) 神木売却及び屋内体育館建設運動経過報告

○ 3月21日, 午後1時より, 宿. 中村銀二, 出席者28名

(1) 町民税の申告について.

- (2) 区内各種委員改選について.
- (3) 道路, 学校改築, 神木売却について報告.
- 7月6日 宿, 中村惣平. 出席者18名
  - (1) 農業委員改選につき選衡委員選出の件.  
選衡委員 中村惣平, 中村銀二
  - (2) 危険物処理委員設置の件  
本年度, 中村石造の組より実施
  - (3) その他報告事項 神木売却, 学校建設土木について

#### 4.2.4 「伍長会」

- (イ) 構成=伍長
- (ロ) 召集者=総代
- (ハ) 日時・回数=定っていないが, 4月か5月に定会有る.
- (ニ) 場 所=支所
- (ホ) 機 能=部落費の予算決算その他の審議機関, 審議会で決定したことを再審議したり承認したりする.

#### (ヘ) 具体例

伍長会議案 昭和38年4月6日

1. 昭和37年度部落協議費決算承認について.
2. 昭和38年度部落協議費予算議定について
3. 八王子神社屋根替工事決算報告について.
4. 新規補助事業について
  - (1) 芝ノ又分校上敷10枚
  - (2) 芳ヶ坪大又線横沢工事補助について
5. 学校だんろごろ供出について.
6. 神社・堂世話人について.
7. 昭和38年度日科極について

8. 地蔵堂割について
9. 総会の日程について.
10. その他.

#### 4・2・5 「審議会」

- (イ) 構成=総代, 区長7名, 地区出身町議2名, 支所長
- (ロ) 召集者=総代
- (ハ) 日時・回数=定っていないが, 部落に問題が起きた時, 平均して年30回くらい開かれる.
- (ニ) 場 所=支所
- (ホ) 機 能=部落費の予算, 決算及び最高議決機関. この審議会は村全体のことについて, 問題が起きたとき会議を開いて審議, 決定を下している.
- (ヘ) 具体例

審議会議案 昭和38年度 (ぬき書き)

○ 7月5日

- (1) 農業委員選挙について.
- (2) 危険物処理について
- (3) 夏季手当
- (4) 豪雪によるイモチ被害反別調査
- (5) 神社木伐採人足20人供出方針

○ 9月9日

夕刻中村勝栄宅より出火, 地元消防団及び本部, 各分団かけつけ消火鎮火, 9日夜, 火災に対する審議委員会召集.

議 案

- (1) 応援来村消防分団お礼の件

来村11分団に対して1分団に千円の謝礼. 本部酒3升到ツマミ百円, 10



日午前 3 班に分れ, 礼廻り.

- (2) 中村勝栄見舞金の件 3 千円.
- (3) 炊出者に対し支払いの件 (飯米のみ支払う)
- (4) 火災に対する経費精算の件

○ 11日20日

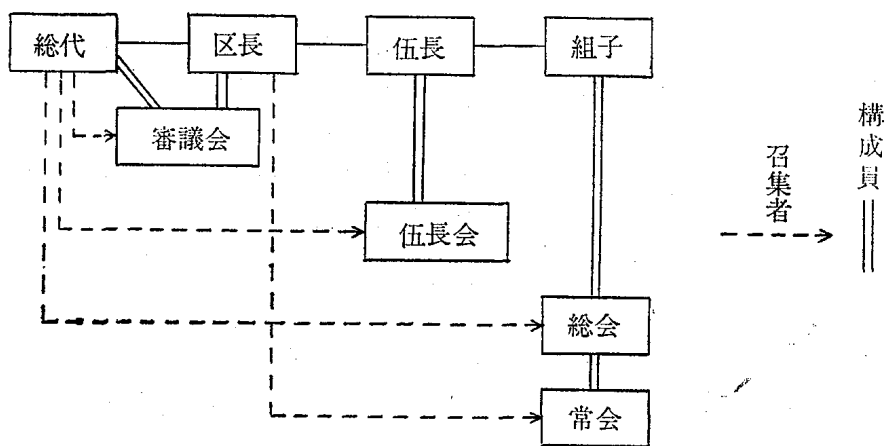
新聞配達に関する件

(11月16日, 新潟日報長岡支局より藤島氏及び中松氏来所)

- (イ) 飯田米平, 7 年間配達, 今回11月限り退職, 購読者集合, その節中松氏から出向い願い, 協議すること.
- (ロ) 飯田米平へ記念品 1500円程度

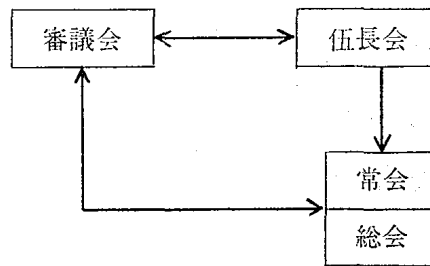
以上見た通り (特に議案をみて) 解るように, 村のあらゆる問題が審議会で審議, 決定され, 執行されている. また, 審議会での決定が各区の常会において, また総会において村民に徹底されているのである.

以上の総会, 常会, 伍長会, 審議会の構成を解り易く図示すると,



第 6 図 a

また, これらの会の相互関係を図示すると,



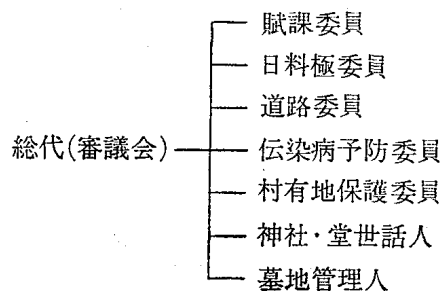
第6図b

この関係は、伝達経路でもある。すなわち、審議会で審議決定されたことが伍長会、常会、総会に伝達される。反対に伍長会、常会、総会で新に問題となったことが審議会にはね返る。

#### 4.2.6 専門委員会

総代のもとに専門委員会なるものがある。これらの委員会は以下述べる具体例をみても解るように、それぞれの問題を専門的に扱い、審議会と合同に会議を開いて審議決定し、執行に移している。

その委員名と構成、機能を示すと



第7図

##### ○ 賦課委員

- (イ) 構成=17名 (総代, 町議2名, 区長7名, 各区より1名選出)
- (ロ) 機能=区費割方の方法及び基礎資料調査

##### ○ 日料極委員

- (イ) 構成=14名 (各区より2名選出)

- (㊦) 機 能 = 部落内の日料の原案作成
- 道路委員
  - (イ) 構 成 = 14名 (各区より 2名選出)
  - (㊦) 機 能 = 道路行政担当
- 伝染病予防委員
  - (イ) 構 成 = 14名 (各区より 2名選出)
  - (㊦) 機 能 = 衛生担当, DDT散布
- 村有地保護委員
  - (イ) 構 成 = 7名 (各区より 1名選出)
  - (㊦) 機 能 = 村有財産の管理
- 神社・堂世話人
  - (イ) 構 成 = 1名 (本村の伍長の廻り番)
  - (㊦) 機 能 = 神社・堂の管理, お坊さんの宿
- 墓地管理人
  - (イ) 構 成 = 7名 (区長の兼任)
  - (㊦) 機 能 = 墓地の管理

これらの委員が具体的にどうしているかということ (日料極委員の例を示す)

昭和38年3月14日

総代 飯田逸栄

日料極委員殿

日料極委員会開催について

左記により日料極委員会を開催いたしますから、御出席下さい

記

1 日時 3月16日 午後1時

2 場所 支所

- 3 議題 (1) 昭和38年度日料極の件  
(2) その他



3月16日

日料極委員会 出席者 10名

議案

- 1 隣接部落情況  
2 昭和38年度日料極について

決定事項

- 1期 自4月至11月 8ヶ月間  
2期 自12月至3月 4ヶ月間  
(1) 賃金 1期 男600円 女450円  
2期 男550円 女350円  
(2) 賄付 1期 男500円 女400円  
2期 男450円 女300円

この委員会での決定事項を印刷して、各区の委員を通じて毎戸に配布される。

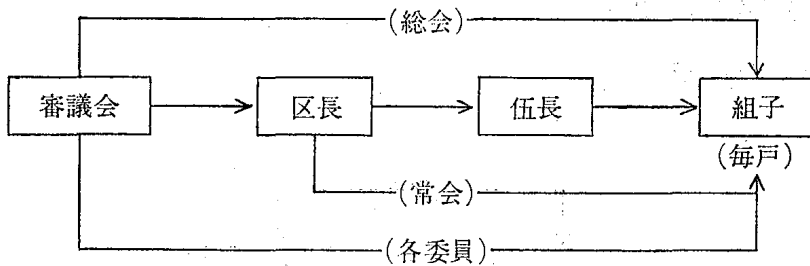
昭和三十八年三月十六日 八王子部落日料極委員会 賃金は一ヶ月以内に支払って下さい 賄付は昼食、夕食を賄うこと	第二期				第一期				三十八年度日料極 昭和三十八年三月十六日
	12月から3月				4月から11月				
	向口		賄付		向口		賄付		
	女	男	女	男	女	男	女	男	
	三五〇円	五五〇円	三〇〇円	四五〇円	四五〇円	六〇〇円	四〇〇円	五〇〇円	

第8図

### 4.2.7 伝達経路

この区組織における伝達経路は主に審議会の決定事項、各委員会の決定事項が各伍長、各委員を通じて毎戸に伝達されるのである。

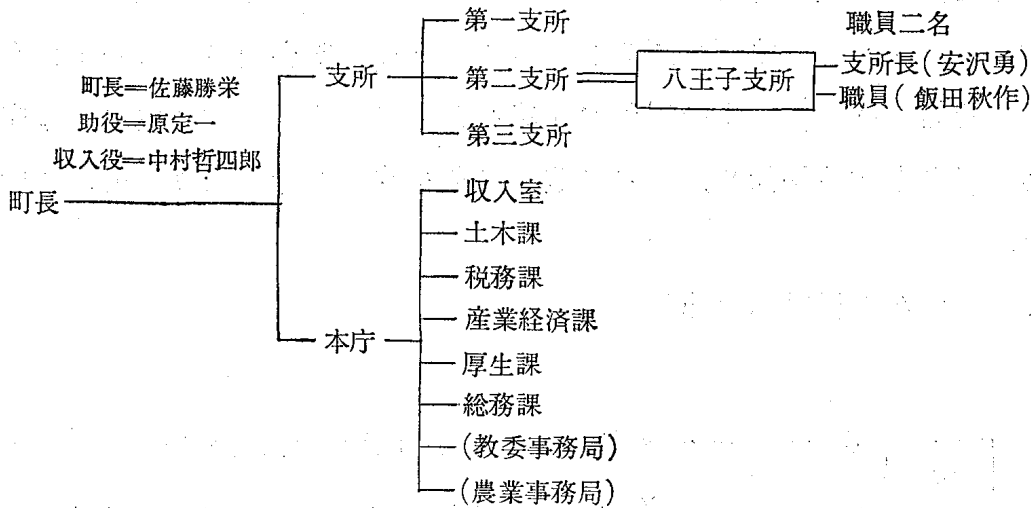
図解すれば



第9図

### 4.3 行政組織

小国町役場と八王子支所の組織図



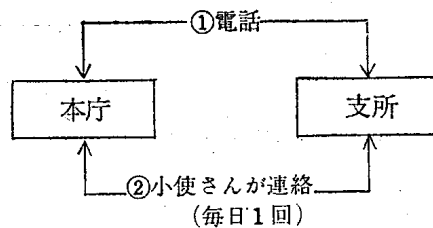
第10図

八王子部落は小国町として統合されているが、先にも述べたように交通状態がきわめて悪い。それに、八王子部落としての独特の問題、仕事もあるので、いわゆる本庁の出先機関として、この八王子支所（第二支所）は村民のためにその機能を果している。

支所の主な仕事といえば、戸籍、住民登録、人口移動、地積、本庁との連絡事務、その他に、審議会、伍長会が支所で開かれるため支所長が書記として参会し、時には意見も述べ、決定事項を印刷したり、毎戸に連絡したり、村民への電話の取り次ぎをしたり、その他、部落の自治行政のため顧問格として、いろいろのことをしている。

次に伝達経路を示すと

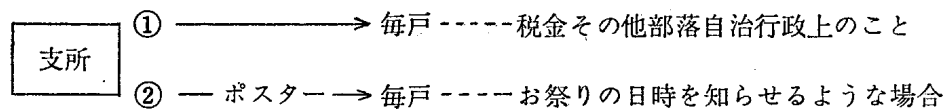
1. 本庁との連絡



第11図 a

本庁と支所との間の連絡は、①電話連絡する一方（本庁が中里局内にあるので、しょっちゅう電話で連絡をとっている）、②小使さん（飯田秋作さん）が毎日一回、本庁まで出かけ連絡をとっている。これは主に、本庁の印鑑を必要とする書類や、その他重要書類を持って行ったり、来たりするため。

2. 支所から村民への連絡



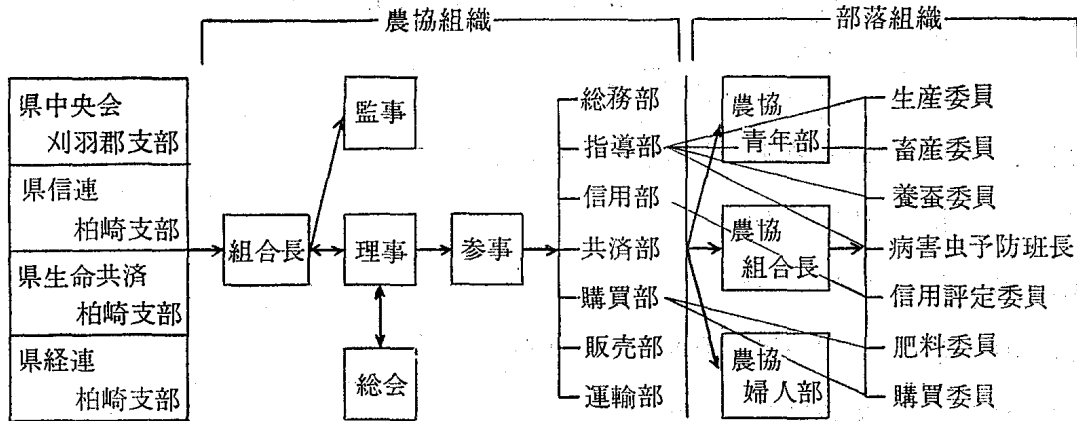
第11図 b

先に述べたように、支所は部落の自治行政組織としての区組織と密接に結びついている。そのため、村民への伝達は、税金のように直接毎戸に連絡する場合と（この場合本村は小使さんが連絡）、離山と芝ノ又は区長さ

んが連絡ポスターによって連絡する場合とがある。

#### 4.4 農協組織

まず、八王子農業協同組合の構造と組織図を示すと、



第12図

この部落の農協の特色は、部落組織なるものがあって、農協に協力していることである。次に、役員、委員、職員名を第13表・第14表に示す。

次に農協の機能を示すと（定款から抜き書き）

1. この組合は、組合員が協同してその農業の生産能率を挙げ、経済状態を改善し、社会地位を高めることを目的とする。
2. この組合は組合員のために左の事業を行う。
  - (1) 組合員の事業又は生活に必要な資金の貸付
  - (2) 組合員の貯金又は定期積金の受入
  - (3) 組合員の事業又は生活に必要な物資の供給
  - (4) 組合員の事業又は生活に必要な共同利用施設（医療に関するものを除く）の設置
  - (5) 農作業の共同化その他農業労働の効率の増進に関する施設の設置
  - (6) 農業の目的に供される土地の造成、もしくは、管理又は農業水利施設もしくは管理。

第13表 農 協 組 織

役 名	氏 名
組 合 長	中村哲勇
理 事	一区 中村子之一    二区 飯田喜平    三区 中村善之丞    四区 中村石造    五区 中村善作 六区 安沢重栄    七区 中村虎之丞
監 事	飯田敏郎 中村惣平 中村銀太郎
参 事	飯田 午作
総 務 部	飯田 午作
指 導 部	飯田一男 養蚕=山岸良平
信 用 部	飯田午作 安沢ユキエ
共 済 部	飯田午作 安沢ユキエ
購 買 部	中村勝栄 飯田ヤエコ 中村チエコ
販 売 部	中村良作
運 輸 部	中村茂美

- (7) 組合員の生産する物資の運搬, 加工又は販売.
- (8) 農村工事に関する施設.
- (9) 共済に関する施設.
- (10) 医療に関する施設
- (11) 組合員の農業に関する技術及び経営の向上を図るための教育又は農村の生活及び文化の改善に関する施設.
- (12) 組合員の経済的地位の改善のためにする団体協約の締結
- (13) 農業倉庫法による農業倉庫業
- (14) 新潟県の農業信用基金協会の委託業務



第14表 部 落 組 織

区	一 区	二 区	三 区	四 区	五 区	六 区	七 区
農協部落 長	内山 賀藤治	飯田清松	中村真一	中村銀二	中村 岩松	安沢 高治	内山 信一
生産委員	内山政敏	飯田 博	中村正一	中村虎一	中村 幸夫	安沢 誠栄	大橋 隆治
防除班長	中村義典	中村光春	中村正行	中村 博	中村英三郎	安沢 隆司	内山 毅
肥料委員	飯田金一	飯田敏郎	中村 健太郎	中村幸衛	飯田 三吉	安沢 由基	中村 博純
畜産委員	飯田 清	内山長栄	中村 伊之一	中村梅吉	飯田 弘二	飯田 藤治	中村 栄作
信用評定 委員	飯田武男	内山一郎	中村堅作	中村庄衛	中村 俊一	安沢 猛一	内山誠一郎
養蚕委員	中村庄栄 内山 午之丞	飯田三次 中村勝美	中村正作 中村力夫	中村石造 中村 吾平治	中村 午吉 中村 吉春	安沢 由基 安沢 熊吉	内山誠一郎 内山 米作
婦 人 部 委 員 兼 購 買 委 員	飯田美江 飯田カウ 飯田ミキ 飯田 チエ子	飯田 ハナイ 中村 タツ子 飯田ヨシ 中村キヨ	中村シモ 中村 ハルエ 中村カウ 中村ハル	中村キイ 中村トミ 中村スギ 中村ヨキ	中村 フサ 中村 マサ 中村 ヨキ 中村 節子	安沢 ミス 飯田サツキ 飯田ミツイ 安沢 ヤエ	内山 キシ 内山 イツ 中村 スミ 内山ヨシノ

さらに、各々の役員、部の機能を示すと、

「組合長」

組合を代表し、理事会の決定に従って業務を処理する。(定款)

さらに、規約によると、

・ 基本的任務 組合長は理事会で決定された方針にもとづき、経営執行方針を立て、経営組織、人事財務及び業務活動について経営の全体を統括し、その執行にあたる。

・ 重要な諸関係

- (1) 理事会に対しては、組合運営上、基本となる事項を提案し、事業方針および事業計画をいかに解釈適用し、遂行しているかを説明報告する。
- (2) 参事に対しては、経営方針、経営計画にもとづいて、具体的な執行を命じ、実施結果の報告を求める。
- (3) 系統機関に対しては、一体的活動の強化を図るため、その方針を理解し、系統利用をすすめると共に必要な提言を行う。
- (4) 関係官庁及び諸団体に対しては、組合経営の維持発展のため必要な連絡及び諸報告を行う。

#### 「理事」

組合の経営者、主体者である。

理事会において、組合の事業運営につき左の事項を決定する（定款）。

1. 業務を執行するための方針に関する事項
2. 総会の召集及び総会に附議すべき事項
3. 役員選挙に関する事項
4. 固定資産の取得又は処分に関する事項
5. 参事及び会計主任の任免に関する事項
6. その他

#### 「監事」

少くとも、毎年度2回組合の財産及び業務執行の状態を監査し、その結果につき総会及び理事会に報告し、意見を述べる。

#### 「参事」

役員と職員の間、組合長のもとの大番頭役、一切の業務の責任者。

・定款によると、理事会の決定により、組合名において行う権限を有する一切の業務を誠実に善良なる管理者の注意をもって行う。

規約によると、

・基本的任務 参事は組合長から委任された組合全般の業務を執行する

責任を負い、このため各部主任を指導し、各部門活動を調整し、組合の方針に合致するように業務を行う。

・重要なる諸関係

- (1) 組合長に対しては、基本的任務及び責任事項と権限をいかに解釈適用し、遂行したかを説明報告し、業務運営上、必要な事項を提言する。
- (2) 各部主任に対しては、その職務遂行を常時指揮監督し、各部が密接に協調、協力するようにする。

「総会」

承認・議決機関

- 理事会の名において、毎事業年度1回、4月又は5月に通常総会が召集される。
- 総会では左の事項について議決する。
  1. 前年度の事業報告書、財産目録、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案承認
  2. その年度の事業計画並びに収支予算案承認。
  3. 賦課金の徴収時期及びその方法議定
  4. 役員報酬議定
  5. 貸付金の利率最高限度
  6. 年度内一組合員に対する貸付金の最高限度
  7. 借入金の最高限度
  8. その他

「各部業務内容」(定款による)

○ 総務部

1. 庶務
2. 文章
3. 人事
4. 財産及び会計

5. 内部統制
6. 財務管理
7. 監査
8. 組合員の教育
9. 組合員の厚生
10. 農政
11. その他

○指導部

1. 農業総合生産計画の樹立と実行
2. 営農相談所の運動
3. 共同生産活動の指導及び推進
4. 農業電化, 機械化, 畜産指導
5. 農地水利の改良
6. 耕種, 施肥の改善指導
7. 畜産の指導ならびに家畜医療
8. 園芸の指導
9. 養蚕の指導
10. 農業生産及び農家経済の調整と研究
11. 関係団体, 技術者との連絡ていけい
12. 農業研究会などの育成指導
13. 各種生産部会
14. 品評会, 技術講習会の開催
15. 種子, 種苗, 蚕種等の生産及び奨励

○信用部

1. 貯金及び定期積金
2. 資金の貸付
3. 貸付証書, 手形及び担保物の管理
4. 利息以外の事業直接収益の受入れと事業経営の支払い

○ 販売部

1. 販売業務
2. 農業倉庫業務
3. 農産物の加工斡旋
4. 事業直接収益の受入れと事業経営の支払い.

○ 購買部

1. 農業生産資材・生活資材の受入れ, 供給
2. 主要食糧の配給
3. 家の光などの教育資材の受払い
4. 購買倉庫及び店舗購買品の保管々理
5. 肥料, 飼料の共同配合
6. 購買予約のとりまとめ
7. 組合員に対する共同購買指導及び情報の提供
8. 業務上の契約締結
9. 共同計算購買
10. 購買代金の精算
11. 購買未納品の督促ならびに回収
12. 店舗供給業務に伴う現金出納及び供給日計の作成
13. 貸倒金の確証とその処理方法の立案
14. 事故処理
15. 購買品棚卸
16. 受託売却
17. 事業直接収益の受入れと事業経費の支払い.

実際, この農協で組合員のために売る品物を次のように項目分類をしている,

1. 食糧品
2. 衣料品 (手拭, 靴下, たび, 風呂敷, ハンカチ, 紺織, ゆかた, 学

生服)

3. たばこ
4. 酒類
5. 石油類
6. 肥料
7. 飼料
8. 農機具 (脱穀機, 電燥機, 板すり機)
9. 農薬
10. 生産資材 (温床紙, 防鳥網, テープ, 縄, シャベル)
11. 日用品雑貨 (ちり紙, 学用品, 洋傘, 笠, 雨具, ロープ, ビニール)
13. 金物類 (釘, 針金, なべ, バケツ, 水シャク)
14. 電気器具 (電球, 電池, 洗濯機, 扇風機)
15. 医療品, 畜薬, シロン, 目薬, 脱し綿, サロンパス
16. 養蚕資材
17. 燃料品 (木炭, 煉炭, 豆炭)
18. 耕運機

。共済部

1. 生命共済, 建物更生共済の契約並びに解約
2. 共済契約の保全
3. 再共済契約
4. 共済掛金の受入れ
5. 共済金の受入れ, 支払い
6. 共済割りもどし金, 払いもどし金, 返れい金の受入れ, 支払い
7. 共済振替, 証書借入れ, 貸付回収
8. 掛金未収の督促, 回収
9. 共済事業の普及奨励
10. 事業直接収益の受入れ, 事業経費の支払い。

○ 運輸部

1. 自動車の管理
2. 運送計画と貨物輸送
3. 運送未収金の督促並びに回収
4. 運転日報の作成並びに営業月報、輸送実績報告書の提出
5. 輸送台帳、経費明細帳の記帳整理および総勘集計表の作成
6. 事業直接収益の受入れと事業経費の支払い。

次に部落組織の方をみると、

農家組合長、農協青年部、農協婦人部は、現在名ばかりで、ほとんど仕事をしていないとのことである。

農家組合長は区長が兼ねていて、組合の協力者であり、また、組合と組合員の間の中介者である。

農協青年部は、青年の組合への協力団体として発足したのであるが、現在、あまり仕事はしていない。ただ、指導部のもとにあって、少しは協力しているとの事である。

農協婦人部も同様、婦人の協力団体であったのであるが、現在は農協の購買委員を兼任していて、購買委員としての仕事の主である。この婦人部はまた、後で述べる婦人会と同一のものである。始めの頃は、婦人会と農協婦人部は分かれていたのであるが、仕事は別々であるということは、婦人会と農協婦人部が協力し合うというよりは、かえって仲たがいを起すというので、婦人会と農協婦人部が合体したのである。

次に各委員の機能を示す。

・ 生産委員

部落の生産を向上させることを目的としている。主に生産資材の取り次ぎ、とりまとめ、温床紙、種苗の注文。

・ 畜産委員

畜産の普及、奨励、販売（豚、にわとり、牛、めんよう等年百頭以上出

荷の場合のみ)

・養蚕委員

蚕の卵の注文の取りまとめ，共同飼育の世話，出荷。

・病虫害予防班長

稲作の薬の注文，配布，機械の整備，共同病防

・信用評定委員

組合員の財産信用を評定し，貸付額の決定（最高5万円）。

・肥料委員

肥料の注文と受け渡し。

・購買委員

生活資材の注文，配布。

次に，伝達経路を示す。

定款によると「組合の公告は，この組合の掲示場に掲示して，これをす  
る。この場合，公告の内容は，必要があるときは，書面をもって組合員に  
通知し，又は，新潟日報新聞に掲載する」とある。

実際には，農協組織においては，中央会とか，県信連とか（主にその支  
部）からの伝達や，組合長会議，金融会議，購買部会議とかによる伝達は，  
ほとんど組合組織内にとどまってしまふ。その中で重要な要件とか，村の  
人のためになることだけが，部落組織を通じて各戸の組合員に伝達される。

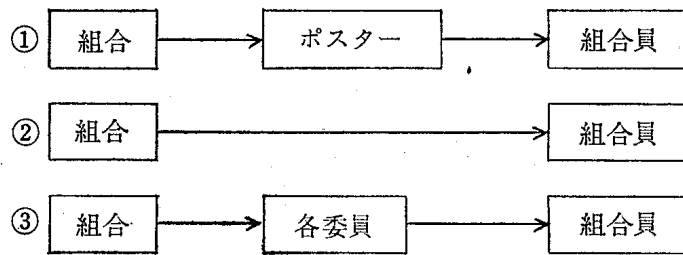
農協組織までの伝達の具体例はないが，農協から各組合員への伝達は，  
その方法に三つの方法がある。（定款に書かれている新潟日報新聞に掲載  
するということは，まだ一度も行われた事がない）

①の場合には，農薬の配布の日取りとか，農産物出荷の日取り，棚卸に  
つき休業の案内などの場合行われる。

②の場合は，組合費徴収の場合など。

③の場合，この方法が最も多く行われている。この方法は組合職員が，





第13図

担当している事業関係のことを、関係委員を通じて各組合員に伝達する方法である。

たとえば、

各位殿 回覧	昭和38年 11 月 18 日 八王子農業協同組合														
<p>春ヒナの申込みについて</p> <p>来年春ビナの申込み時期となりました、入手希望日に確実に優良ヒナを受渡し出来ます様、早く申込みをお願い致します。</p> <p>注文書 _____ 区</p> <p>昭和39年度春ヒナを下記の通り注文いたします。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 15%;">氏 名</th> <th colspan="2" style="width: 35%;">初 生 ヒ ナ</th> <th colspan="2" style="width: 35%;">中 ビ ナ (40日)</th> </tr> <tr> <th style="width: 17.5%;">白 レ グ</th> <th style="width: 17.5%;">ロ ッ ク ホ ー ン</th> <th style="width: 17.5%;">白 レ グ</th> <th style="width: 17.5%;">ロ ッ ク ホ ー ン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		氏 名	初 生 ヒ ナ		中 ビ ナ (40日)		白 レ グ	ロ ッ ク ホ ー ン	白 レ グ	ロ ッ ク ホ ー ン					
氏 名	初 生 ヒ ナ		中 ビ ナ (40日)												
	白 レ グ	ロ ッ ク ホ ー ン	白 レ グ	ロ ッ ク ホ ー ン											

これは、畜産委員を通じて各区の注文をとったもの。(毎戸を委員から回覧として) また

至 急 回 覧 下 さ い

危 険 ！

◎イモチ病警戒状報◎

38.6.3 八王子農協

異常気象状態は益々悪条件をもって農作業に、作物に悪影響を及ぼしつつあります。

特にイモチの発生条件が良くそろい危険な状態を呈しつつあり、特に注意を要します。

下記により適切な措置をして下さい。

1. 苗代状態よりイモチ発生条件

- ① 高温により徒長軟弱苗になった苗畑が全般に厚くなった。
- ② 徒長苗の為、本田植付時深植となる。
- ③ 今後の気象状態が悪くなる。
- ④ 全般に苗イモチが現在している。

以上のことからイモチ発生条件がよくなっています。

2. 予防対策

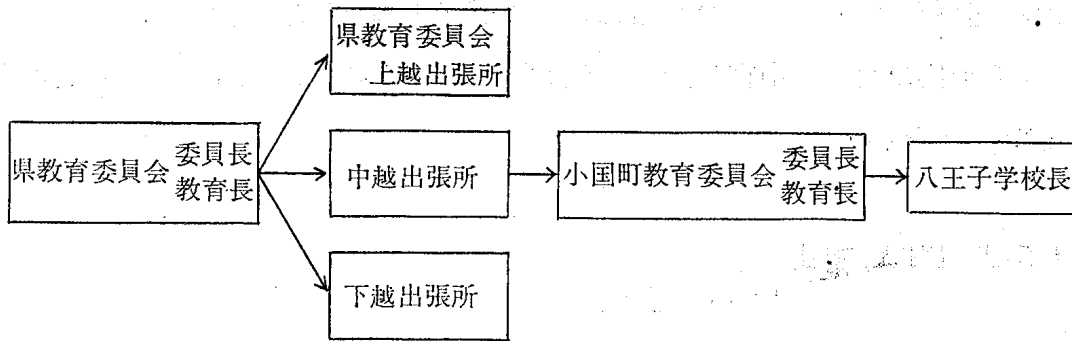
- ① 現在残っている苗代は早急に消毒を必ず行ってから本田に移植する事。
- ② 田植には特に注意して浅植とする事。
- ③ 本田の水をなるべく温めて、活着生育を助ける様、管理する事。苗にイモチ病のあるものはすて下さい。

というような伝達が指導部より、各区の病虫害予防班長を通じて毎戸に伝達される。

#### 4.5 教育組織

##### 4.5.1 教育委員会の組織図 (小国町として)

- 小国町教育委員会



第14図

委員 長 = 木我忠治

副委員長 = 樋口時平

委員 = 高橋孝一, 中村哲勇, 真貝永四郎

。小国町教育委員会の機能

小国地域の教育基本方針, 学校経営方針の決定, 教員人事の決定.

第15表 事務局機構

役 名	氏 名	分 掌 (機 能)
教 育 長	真 貝 永四郎	公印管守・人事管理・施設管理
書 記 教育長代理	大 橋 正 典	総務・予算編成・公立文教施設・各種補助金・免許
指 導 主 事	中 村 徳 衛	学校教育指導一般, 教科課程・組織教科書
書 記	峯 村 誠	調査統計社会教育・公民館関係
書 記	長 井 百合子	庶務(文章) 学校給食, 就学事務

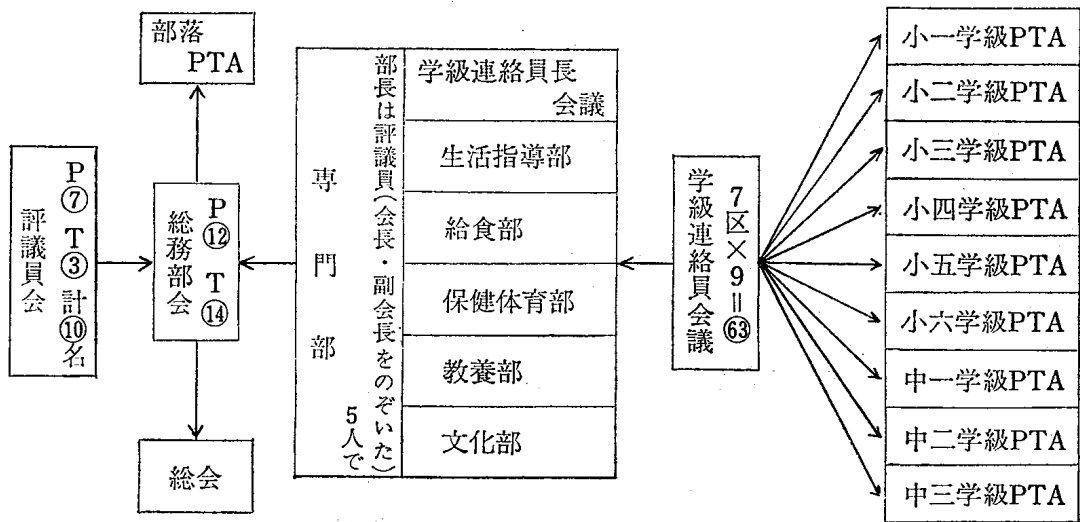
。命令伝達経路

組織図に示した矢印の通りである.

先に述べたように、この部落は教育行政上中越に属している。

(八王子部落は、小国町として統合されているので、八王子としての教育委員会はない)。

#### 4.5.2 PTA 組織



第15図 P T A組織図

#### 。役員名

会 長＝中村庄衛(P)

副 会 長＝中村庄栄(P) 小林吉樹(T)

会計主任＝中村善之丞(P)

幹 事＝中村源一(P T)

この部落のP T Aの特徴は、学校に対して後援会的な存在であることであり、委員も各区代表という型であることである。

そのため、P T A会費も部落民全員より徴収されている。徴収される会費のざっぱな内訳を示すと。

平均割 20パーセント

資産割 50パーセント

第16表 評 議 員

区	氏 名	担当専門部名	担当教員
1	中 村 庄 栄	(PTA副会長)	
2	中 村 賢 二	給 食 部 長……	中村(幸)
3	中 村 善之丞	教 養 部 長……	高 橋
4	中 村 庄 衛	(PTA会 長)	
5	中 村 作 栄	生 活 指 導 部 長……	中村(保)
6	安 沢 武 徳	保 健 体 育 部 長……	清 水
7	内 山 良 三	文 化 部 長……	中村(丈)

児童数割 30パーセント

さらに、この部落の教育的特徴を示している文があるので記しておく。

1. 一般的なもの

- (1) 児童生徒も有力な家事協力者である。
- (2) 多数の前で発表する事や知らぬ人に聞かれた場合に対応することが不得意である。概念的である。
- (3) 比較的純朴であるが粗野な点がある。
- (4) 血族結婚が多い。
- (5) 校区に医者がない。
- (6) 二、三男の就職に対して父兄の関心がうすい。
- (7) 冬期間の出稼者が多い。
- (8) 道路開さく工事のため村人に小遣銭の収入があり、やや生活が派手になりすぎている。
- (9) 最近特に父母が教育に対する理解が深まり、学校に対し協力的になってきた。
- (10) 校区の中堅指導者は殆んど農学校卒業者であって、農事研究、町内

行政、武道大会、消防団演習と、あらゆる面において推進力となっている。

- (1) 小国町においても特に豪雪地帯にある。
- (2) 学区内に商店少く、農協中心による経済生活の実態である。

## 2. 併置校の特殊性

- (1) 小中併置であるから、業務教育9ヶ年の一貫性がある。
- (2) 小学校児童が自主性に欠けて、6年になっても人に頼るという子供らしさが抜けない。
- (3) 校地、校舎、校具の共同使用が可能である。
- (4) PTAその他あらゆる面で一本化されているので都合がよい。
- (5) 授業時間は中学には短く、小学には長く、うまくゆかない。
- (6) 小中職員の協力により何事も協力的に進められる。
- (7) 小中の子供たちが一本になって兄弟のように協力し合っている。

## 3. 冬季分校

- (1) 12月より3月まで、離山、芝ノ又の2ヶ所に開設する(小1～小3)

次に、PTAの機能をみるために規約を示すと。

八王子学校区PTA規約(昭和36年4月決定)

1. 本会は八王子学校区PTAと称する。
2. 本会は左の諸項を目的として活動する。
  - (1) 民主教育の推進をはかりその充実につとめる。
  - (2) 児童生徒の福祉を増進する。
  - (3) 学校と家庭の連絡を緊密にすること。
  - (4) 児童生徒の校外活動を指導すること。
  - (5) 会員の教養を高めること、その他。
3. この会は八王子小学校並びに八王子中学校に在学する児童生徒・保護者及び同校の職員またこの会の趣旨に賛同するものをもって組織する。

4. 本会の事務所は八王子校におく。
5. 本会は左の役員をおく。
  - (1) 会長 1 名(P)
  - (2) 副会長 2 名(P・T)
  - (3) 評議員 7 名(各区より 1 名推せん)
  - (4) 会計監査 1 名(P)
  - (5) 幹事 1 名(P)
  - (6) 顧問(総代, 町議, 支所長, 教育委員)
  - (7) 学級連絡員(P)
6. 役員の任期は 2 ヶ年とし, 改選期を月末とする。但し, 重任をさまたげず, 補員は前任者の残期をつぐ。学級連絡員にかぎり任期 1 ヶ年。
7. 評議員は各区において推せんし, 会長, 副会長は評議員会において互選し総会において紹介承認をうける。幹事は会長の指名による。学級連絡員は各学年で各区 1 名を選出する。
8. 会長は本会を代表し, 会務を統理する。副会長は会長を補佐し, 会長の事故ある時は, その任務を代行する。評議員は重要事項を審議し, 幹事は庶務を処理する。学級連絡員は学級 P T A の中心となり, また次の 5 つの専門部のいずれかに入って学級の意見を反映し, 本会の目的を果すために活動する。
  - (1) (校外)生活指導部=校外における子供の世話役, 標識, 生活表の作成。
  - (2) 給食部=給食物資の調達。
  - (3) 保健体育部=体育的行事に対する応援, 運動会, 臨海教育, 衛生。
  - (4) 教養部=会員の教養を高める。視察, 講演会。
  - (5) 文化部=文化的行事の応援。広報活動, 展覧会, 学芸会, 書道講習。
9. 本会には次の機関を置く
  - (1) 総会=年 1 回, 4 月中に歳出入予算決算の承認, その他会長の必要

と認めた事項.

- (2) 評議員会＝評議員中，会長，副会長の他は各専門部長となる.
- (3) 総務部会＝評議員，各専門部副部長P側T側その他職員全員.
- (4) 各専門部会＝召集は各専門部長.
- (5) 学級PTA＝召集は学級PTA会長.
- (6) 部落PTA＝召集は評議員.
- (7) 学級連絡員評議員合同会.

以上

以上の規約をみて，PTAの機能，会長，副会長の仕事，その他の委員の仕事，さらにその間の関係も理解できると思う.

次にPTA組織における伝達経路を示すと，だいたい組織図に書いた通りである.

学校と家庭との連絡は，ほとんど担当先生から生徒をメディアとして行われている. 学級連絡員を通じて連絡がなされることもある. また，この学級連絡員は各々の専門部員でもあるので，それぞれの部の決定事項も，この連絡員を通じて連絡される.

すなわち，学校長と専門部長の名で，委員は会議に召集され，会議での決定事項を各区に帰って，生徒のいる家に連絡する.

具体例として生活指導部のものを示すと，

昭和38年7月18日

八王子小中学校長 小林 吉樹  
生活指導部長 中村 作栄

生活指導部各位 殿

部会開催について

このことについて左記により部会を開き度いと思いますので，夜分お疲れの事と存じますが，万障くりあわせ御出席願います.

なお御都合の悪い方は代理人から出席していただくよう御手配下さい



記

1. 日時 7月19日夜8時より10時半頃まで（開会時間厳守）
2. 場所 学校，教務室にて
3. 議案
  - ・校外生活指導表（特に夏季を重点に）について
  - ・夏休中の補導について方法，内容など
  - ・その他 ①生活指導部反省会について
  - ②次期会合と計画について

ここで審議され，決定された内容が区の委員を通じて連絡されるものである。すなわち，決定内容を次のように印刷して，生徒のいる家に配布する。

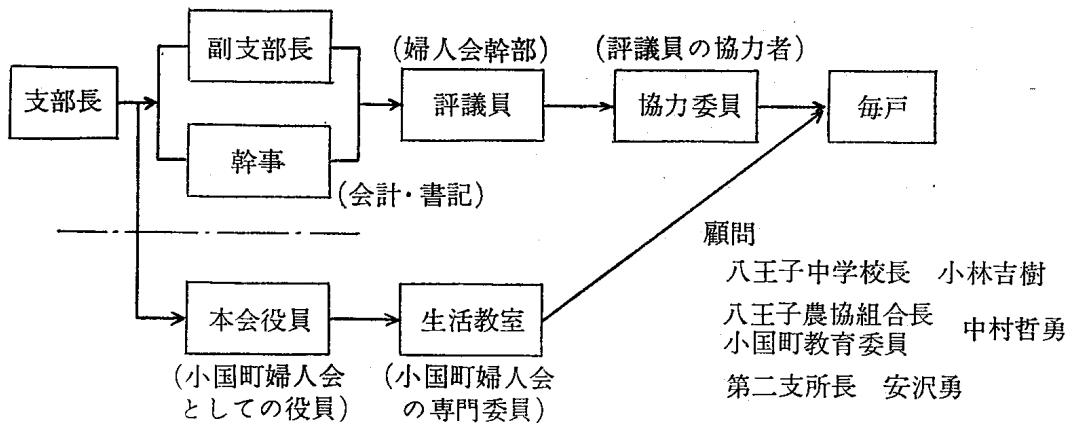
昭和38年度夏季校外指導部重点表案 P T A生活指導部

項 目	内 容
分団会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席しないようにする</li> <li>・自分の考えをはっきり述べる</li> <li>・皆が参加し易い日を決め，行事に進んで参加しよう</li> <li>・小さい子たちの世話をする</li> </ul>
テレビ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜はおそくまでみない，おそくとも9時までとする</li> <li>・つづけて2時間以上はみないようにする。</li> <li>・テレビから4メートル以上離れてみるようにする</li> <li>・プロレスなどの番組はみない</li> </ul>
登下校 (交通)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出る時間を決めておく</li> <li>・歩き方に気をつける <span style="font-size: small;">┌右側通行</span> <span style="font-size: small;">└交叉点…一時とまる。カーブに注意</span></li> <li>・仲よく，さそい合って小グループで来る</li> <li>・交通標識に注意する</li> </ul>
学 習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るい静かなところとする。</li> <li>・正しい姿勢で机をつかう。</li> <li>・毎日時間をきめて計画的にする（「勉強中」の札を下げる）</li> <li>・すどしいうちにすませる（朝9時半頃までは友達を呼びに行かない）</li> <li>・日記をつける</li> </ul>

遊 び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行く先, 誰と何を何時までと家の人につけて出る.</li> <li>・危険な遊びをしない</li> <li>・夕食後は外へ出て遊ばない</li> <li>・水泳はきめられた場所ですること</li> </ul>
保 健	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまった時間に寝起きする</li> <li>・ごろねをしない</li> <li>・不規則な間食はしない</li> <li>・手足はいつもきれいに</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友人を呼ぶとき, 君, さんをつける</li> <li>・ことばづかいに気をつける</li> <li>・よわいものをいじめない</li> </ul>

#### 4.6 婦人会組織

◦組織図と役員名



第16図 婦人会組織図 (小国町婦人会八王子支部)

#### 婦人会の機能

##### ① 婦人の地位向上生活改善のための活動

たとえば, 婦人の教養を高めるために種々の講習会, 講演会を開いたり, また生活改善, 簡素化のため, 出産についての申し合わせとか, 婚姻の申し合わせのようなものを決めている. また, 敬老会を開いたり, 若妻のた

第17表 婦 人 会 役 員

役 名	一 区	二 区	三 区	四 区	五 区	六 区	七 区
支 部 長	中村清野						
副支部長	中村キイ 飯田ハナイ						
幹 事	安沢シヨ						
本会役員	中村フサ, 中村トミ						
評 議 員	飯田美江 飯田カウ	飯田ハナイ 中村タツ子	中村 シモ 中村ハルエ	中村キイ 中村トミ	中村フサ 中村マサ	安沢ミス 飯田 サツキ	内山 キン 内山 イツ
協力委員	飯田ミキ 飯田 チエ子	飯田 ヨシ 中村 キヨ	中村 カウ 中村 ハル	中村スギ 中村ヨ子	中村ヨキ 中村節子	飯田 ミツイ 安沢ヤエ	中村 スミ 内山ヨシノ
生活教室	飯田ウメ	飯田 松江	中村 チエ	中村すま	中村キセ	安沢サク 安沢 ナオミ	中村 範 内山フサ子

・ 印の人が各区の婦人会の部長

め親睦会を開いたりしている。

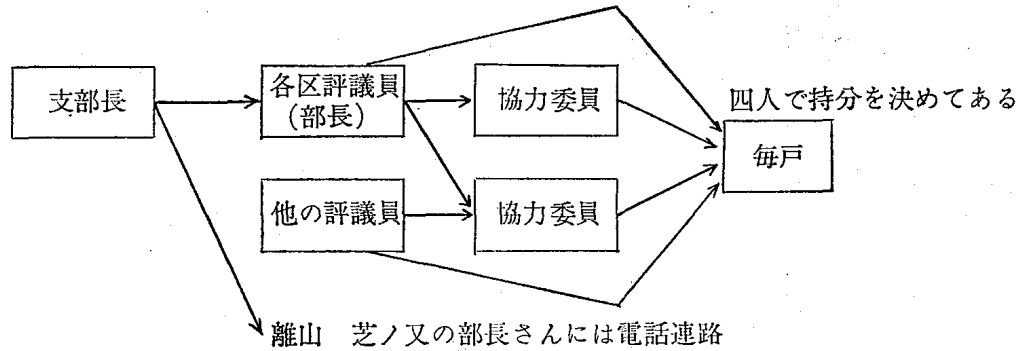
具体例として、出産についての申し合わせを示すと。

1. 幼児の場合の出産費用、並びに衣類の支度は婚家先で負担すること。
2. 嫁の実家ではお祝として一重程度にする。
3. 出産祝の振舞は初児のみとする。
4. おびやあきの振舞、孫祝は廃止すること。
5. 出産見舞は、親子兄弟として、隣近所は結婚式に行来する家だけにとどめること。
6. 初孫のお産見舞は両方へ行かぬこと。

7. 出産見舞のお返しは全部廃止すること。

② また、婦人会は、農協婦人部（購買委員）を兼任しているので農協への協力機関として、婦人のために生活必需品や手袋ゴム長靴、着物等の注文を取り、その品物・受け渡しを行っている。また農協の信用部に協力して婦人貯金の積み立て、奨励を行っている。

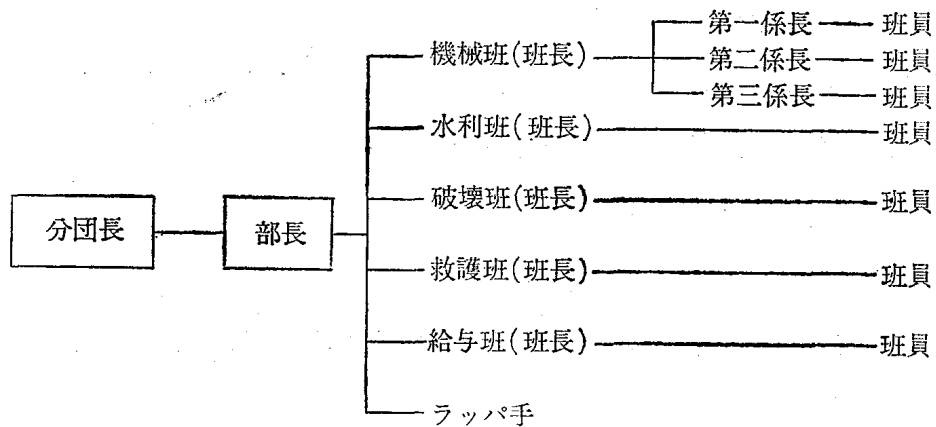
次に伝達経路であるが、支部長に伝達すべき事が伝えられると、支部長さんは各区の部長さんに、部長さんは他の評議員と協力委員に伝達し、4人で、それぞれの持分の家に連絡するのである。



第17図

#### 4.7 消防団

消防団は小国町としての消防団＝小国町消防団第17分団と、村の自衛手



第18図

段としての後援隊なるものがある。

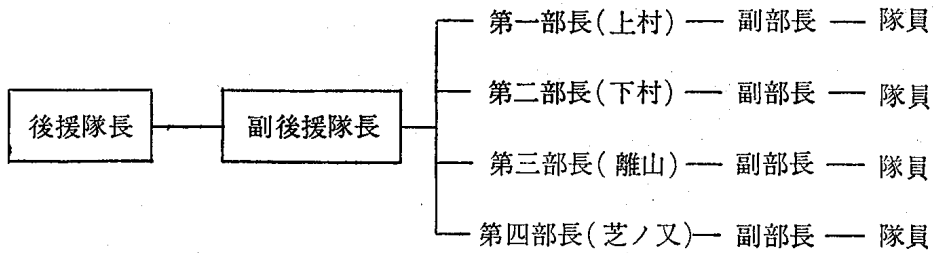
組織図と役員名を示すと

。小国町消防団第17分団(組織図第18図)

第18表 役 員 名

役員名	氏 名	構成人員 (団 員)	役員名	氏 名	構成人員 (団 員)
分 団 長	中 村 一 正	名 1	破壊班長	中 村 光 春	名 6
部 長	飯 田 博	1	救護班長	中 村 忠 昭	4
機械班長	内 山 正 俊	18	給与班長	安 沢 隆 司	3
水利班長	中 村 幸 衛	6	ラッパ手	中 村 博	1

。八王子後援隊組織図



第19図 組 織 図

第19表 役 員 名

役 名	氏 名	構 成 人員(隊員)
後 援 隊 長	中 村 銀 二	名 1
副 後 援 隊 長	飯 田 敏 郎	1
第 一 部 長	中 村 善 之 丞	13
第 二 部 長	中 村 淳 二	14
第 三 部 長	安 沢 武 徳	6
第 四 部 長	中 村 博 純	10

5. Input & Output コミュニティ・コミュニケーション

第1表の中で Input コミュニティ・コミュニケーションと Output コミュニティ・コミュニケーションの項に記入した事項について述べる。

この村を最初に開いた一団の氏族は、この地域に流入し定着する以前に居住していた外界での文化を担ってこの土地を開き、ここに定住するようになったわけであるが、それ以後移動してきた別の氏族集団もそれぞれの行動様式をこの土地に持ちこみ、Intra コミュニティ・コミュニケーション

第20表 新潟県刈羽郡小国町字八王子へはいつてくる行商人 (昭和38年現在)

	商店名	所在地	商いの内容	入ってくる回数
食料関係	大和や	小国町千谷沢	醤油・そうめん その他	3日に1度ぐらい
	片幸商店	小国町小栗山	食料	3日に1度ぐらい
	中鯖石	中鯖石	魚	1ヶ月に4~5回 ぐらい
	番神	柏崎	魚・その他	3日に1度ぐらい
	喜美や	小国町猿橋	食料・肥料	1ヶ月に2~3回
	その他	長野県	りんご	
衣料関係	加茂や	小国町猿橋	衣料一般	ほとんど毎日
	近藤	柏崎	"	常店を出している
	神保	小千谷	"	1週間に1度ぐらい
その他	米山ラジオ店	小国町新町	電機器具	
	高橋	"	金物	
	三条の金物や	三条市	"	年に2~3回
	くすり	富山市	薬	年に2回

第21表 雑貨店 小助（飯田安太郎）在庫品目（昭和38年8月16日現在）

## I 食 料 品

## 1. 缶 詰 類

さば水煮(北洋), さけ(北洋), さんま大和煮(日水), 鯨大和煮(日水), 長須すきやき赤肉(日水), 須の子水煮(極洋), あさり味付(二幸), 魚のてんぷら(北洋), ひかさフルーツみつまめ(北洋), のりの佃煮(丸上, 愛知県), のりの佃煮(カネハツKK), こけし印白桃(三井物産), 白桃(太洋食品), いちじくシロップ煮(三井物産), オレンジジュース(明治, ポン), 森永ドライミルク, わさび(ハウスカレー), 七味(山清), SBカレー, 柿の種(長岡浪花や).

## 2. 袋, ビニール, セロファン包類

ラーメン(東洋水産, 明星, ラミー, 都), オーマイマカロニ(日粉), ママーマカロニ, はるさめ(森井はるさめ本舗), 五目飯の素(キンケイ・箱詰), 味の素, 洋からし(テーオー食品東京), きな粉(渡辺製菓), なす漬の素(東京食品), いりごま(KATŌ KK), わかめ(北海名産), こんぶ(新潟), 伊勢ひじき(二幸商会), きりいか, げそ焼(名取商会), つくだに, しらす, でんぶ(カネハツ食品, 名古屋), のりでんぶ(川原食品, 広島), マヨネーズ(清水食品), タンサン(丸アイ食品, 名古屋), 深雪そば(十日町, 惣山商店), にしきめん(井屋), 片栗粉(北海道), つけもの(村岡食品, 東京), のりつくだ煮(県水食品, 長野県), しその実漬(東京), 夏なっとう(新潟), ソーセージ(三井, 静岡), 天ぷらの友(三井, 大阪), にぼし.

ジュースの素: オレンジ粉末ジュース(ヤマエ製菓, 名古屋), パインジュース(渡辺製菓), グレープジュース(渡辺製菓), コーラ(ミツワ食品, 名古屋), 濃縮ジュース(金港飲料, 柏崎), 粉末サイダー(ミツワ食品, 名古屋).

## 3. ビン詰類

サッカリツ, ネオ・カン味, 食用色素(紅)(三幸), シトロソ(堺清商会, 新潟), 酢の素(斎藤醸造, 新潟), 醤油, とんかつソース(ヒシイゲタ).

4. 果 物

梨, ぶどう, 桃, 西瓜

II 菓 子 類

キャラメル, フジヤのミルクイ, グリコ, チューイングガム (ハリス—クロロ, コーヒー, スペアミント).

袋菓子 10種類

計り売り 10種類

柿の種

アイス・キャンデー 12種類

ブドウパン, 練羊かん

III 化粧品・洗剤類

ポマード(柳屋)

クリーム (マダムジュジュ; ウテナクリーム, ジュジュクリーム, 明色クリンシン)

チック(丹頂, 柳屋)

ヘヤークリーム

ピアスカラー

白髪染め(千代のかんざし)

石けん(牛乳石けん, ミヨシ, ライオン)

洗濯洗剤(マルコ, モノゲン, テル, ニュービーズ, プラス)

食器洗剤(ライポン, ライオン, マイペット)

IV 日用小物類

ライター油, 靴すべり, カタン系, ゴムひも, ナイトキャップ, 頭アミ, ピン, 洗濯ばさみ, ボタン, ホック, 櫛, 洋ぶらし, ハンガー, 洋傘, 石鹼入れ, 財布3種類, 自動車免許証入れ, バンド, ゴム手袋, マスク, ハンカチ(絵入り, 色つき), ビニール風呂敷, 糊2種類, のりバケ, ハイ叩き, 軽便カミソリ2種類10円と5円, スリッパ, ゴムぞうり, 麦わら帽子, 水中メガネ, 農用笠, バケツ, 細びき, 小包用ひも, すだれ, 紙袋入りおてふき(タテ6cm, ヨコ7cm).

V 薬 品

除虫剤カダン, アース, 香水風呂(桃源), リボンハエ取り



<p>VI 食器・なべ類</p> <p>茶ワン, サジ, シャもじ, 箸5種類, 鍋5種類, やかん, 真鍮のボール, 大根おろし, 卵焼き, たわし, 魚焼きあみ, 水道ホース</p>
<p>VII 子供用品</p> <p>ゴムマリ, 風船, 花火7種類, 魚釣り糸, 魚とり網, 虫カゴ</p>
<p>VIII 学用品</p> <p>ノート10種類, 水彩絵具, クレパス, クレヨン, 水彩道具箱, 下敷, エンピツ6種類, ボールペン, 筆入れ箱7種類, セロテープ, マジック7種類, 墨汁, インク2種類, 便せん, 封筒, 彫刻刀, 硯箱, 図画帳, 画用紙2種類, 折紙, 習字用紙2種類, ぞうり入れ, 紙筒, 水筒, 輪ゴム, 学童用カバン.</p>
<p>IX その他</p> <p>野菜の種15種類, 自転車の虫ゴムセット, 障子紙3種類, チリ紙, つけ木, 電球60W, 40W, 20W, 豆球, 乾電池2種類, 懐中電灯2種類.</p>

ンによってそれらが複合されてできた文化と、この土地で独自に生み出された文化とがこの地域における基盤的文化となり、時代と共に流入したさまざまな情報刺激（この地域住民が外界へ出て行って持ち帰った情報刺激も含めて）が、この基盤的文化に刺激を与え、住民の行動に種々の影響を及ぼしてきたわけである。

この地域社会に刺激を与える情報は、外界からこの社会へ通ずる交通路を通してはいり込んでくる人が言葉によってもたらす情報のみでなく、自身の物腰態度や身なり、所作や、その人がもたらした物が非言語的に与える刺激も含まれるのである。

これらの情報刺激は、実に種々さまざまな形で、この地域社会にはいつてくる。

第20表は、昭和38年当時、八王子部落へやや定期的にはいつてきた行商人の種類と頻度および彼らの基地を示したものである。

第22表 昭和38年8月13日婦人会，青年会主催，盆踊り，寄附者名簿  
〔内〕は筆者註

〔表示金額〕	〔実際金額〕	〔物 品〕	寄附者	〔所在地〕
1万円	〔1千円〕		小国農機ヤンマー	〔新 町〕
1万円	〔1千円〕		こうじや	〔本 村〕
		手拭10本	小助	〔本 村〕
1万円	〔1千円〕		米山ラジオ店	〔新 町〕
1万円	〔1千円〕		田中自転車店	〔相の原〕
5千円	〔500円〕		香神栄や雑貨店	〔柏崎市〕
5千円	〔500円〕		滝沢美容院	〔柏崎市〕
5千円	〔500円〕		福島自転車店	〔猿 橋〕
3千円	〔300円〕		丸栄商店，とうべい	〔芝の又〕
3千円	〔300円〕		加茂屋呉服店	〔猿 橋〕
2千円	〔200円〕		中堅呉服店	〔猿 橋〕
2千円	〔200円〕		安沢床や	〔新 町〕
1千円	〔100円〕		押見商店雑貨店	〔 〕
1千円	〔100円〕		双葉美容院	〔新 町〕
		手拭10本	清見や洋品店	〔新 町〕
		手拭10本	山口や呉服店	〔新 町〕
		タオル2本・湯呑茶わん3ヶ	丸源商会	〔小 国〕

第21表は，この部落の中にある二軒の内の一軒の雑貨店「小助」さんの昭和38年8月現在の在庫品目一覧表である。筆者は，この山深い僻地村の雑貨店に，こんなにもバラエティに豊んだ商品が置かれていることを知って驚いた。当地方の一般家庭では，肉や魚は一年間に2～3回しか食べないことを聞いていたからであった。しかし，これはテレビの導入と子供がこのバラエティを促進したことが判明した。テレビのコマーシャルを熱心に見ている子供が雑貨店に行つて新しい商品を請求する。すると雑貨店主は小型トラックに乗つて，小千谷や柏崎まで出かけて仕入れてくる。そして，その新商品が子供の間で，ほんの短期間，話題となり流行となつて売れるのである。第21表中の日用小物類の最後の所に「紙袋入りおてふき」が記

入されているが、上記雑貨店で筆者がこれを見たとき、明治時代のはじめに和服袴に西洋渡来の皮靴をはいている人の写真を思い出したほどであった。

テレビを媒体とする外界からの情報刺激がこの地域の新しい世代を刺激し、この新しい世代が商人を刺激し、新商品の流入が促進され、この導入された新商品が地域社会の人びとの行動を変えていくのである。

第22表は、昭和38年8月13日に婦人会、青年会が主催した盆踊りの寄附者名簿である。どのように見ても「陸の孤島」としか見えない僻地の盆踊りにも、表の中に見られるような外界との関与（日頃関係のある対象に寄付を依頼し寄付を受けること）を知るのである。婦人会、青年会に属する人びとが、コミュニケーションをおこなってきた外界の特定対象がここに示されているわけである。

また、この盆踊りの際、興味ある現象に行き当たった。

この盆踊りの最後の余興に仮装演技比べがおこなわれ、優勝者に賞品が与えられる。それぞれ姿を凝らした村人たちは円形の列を作って演技をし乍ら円周上を進むのである。婦人会、青年会の幹部数人が審査に当たっていた。ひょっとこの面をかぶって踊り乍ら歩くとか、草刈りの真似をし乍ら歩き進むとか種々の仕草が見られた。われわれには草刈りの演技がとても素晴らしく思えたが、都会の娘の扮装をし、花のついた夏帽子を両手で胸の高さに持って、ただ左右に振り乍ら歩いていただけの女性を、審査員たちは一位に選んだ。この選択は、優勝した女性が青年たちに好意を持たれていたか、または、都会への憧憬のためか、あるいは東京からやってきたわれわれ調査隊を意識したためかのいずれかであると考えられた。数人の村人に聞くと、例年の選択基準とは異っており、選ばれた女性も特別の人ではないとのことであったので、第3番目の理由が大きく影響しているように思われた。すなわち、われわれがはるばる東京からやって来て村の人々と親しくなり、盆踊りに参加して一緒に踊ったというそのこと自体が、直

接的な非言語的情報刺激となって、審査員の判定に影響を与えたということであった。そして、都会の娘に扮した女性を一位に選んだのは、実は、東京から来たわれわれを歓迎する好意のあらわれであったわけであった。

## 6. む す び

社会における普及過程の総媒体を浮き彫りにするための第一段階として、われわれは一事例にもとずきコミュニティ・コミュニケーション・システムの構造の解明を試みた。

情報刺激という用語を用いて、言語的ならびに非言語的コミュニケーションの両方をコミュニティに関するコミュニケーション過程の中に含め、つぎに、コミュニティ・コミュニケーションという概念を打出して集団レベルからの考察のためのフレーム・ワークを用意した。つぎに、歴史的ならびに地理的コミュニティ・コミュニケーションの相違が、アメリカや北欧におけるコミュニティ・コミュニケーションと日本のそれとを質的に相違させる重要な要因であることに言及し、これを両軸として、Inter コミュニティ・コミュニケーション (Input & Output コミュニティ・コミュニケーション) と Intra コミュニティ・コミュニケーションの考察をおこなった。

Intra コミュニティ・コミュニケーションについては、住民の行動を開発するコミュニケーション空間を構成するものとしての諸状況と諸構成ならびにこの空間における歴史的人間関係と諸組織およびインフォーマル・コミュニケーション・ネットワークを取り上げた。

本稿では紙巾の都合で、コミュニティ・コミュニケーションのシステムの記述に重点を置き、その構造に関する分析的考察はほとんどなし得なかった。

ここで扱ったコミュニティは、今日、都市工学者が画いている現代的理想社会としての計画的社会を指すのではなく、歴史的に形成された。した

がって日本的諸要素を完全に具備した小地域社会である。そして、筆者は、これを日本的コミュニティの原型の一つと考えて考察したが、その理由は、この考察を基にして、現代の小地域社会を解明しようと考えたからである。何故ならば、過疎化傾向社会や定常的社会は申すまでもなく今日、膨張する日本の地方社会の多くは、歴史的な小社会を種々の核として、そこに流入した他地方からの人びとの混入によってなっているからである。

しかし、過疎化傾向を持つ小地域社会に対して、人口密度を高めつつある社会は、112頁の註1に述べたように過疎化傾向社会には存在しない人口誘引要素を備えているので、これらの諸要素と住民との新しい関係がコミュニティ・コミュニケーション・システムの中に加えられなければならない。

## The Structure of Community Communication System in Japan

A case study of community communication system  
as the total media for social diffusion process

*Yoshiyasu Uno*

*Toshio Nakamura · Ryuichi Nozaki*

*Shunichi Murase · Shinichi Aoike*

### Résumé

As the first step to elucidate the total media for social diffusion process, we made an attempt to grasp the structure of community communication utilizing a typical Japanese community as a case.

The first step in our current study was to establish the concept of "community communication" for the purpose of developing a framework enabling the perception of communication phenomena within a community from the group level (or sociological level). Following, preparation was undertaken to develop an integrated perception of both verbal and non-verbal communication with the use of the concept "information stimulus".

The next process involved the preparation of the analytical dimensions of historical and geographical community communication. It is believed that the difference in these dimensions accounts for the difference between the community communication found in Japan and in the western world, namely the United States and Northern European countries in particular. Then, by affixing the historical and the geographical aspect on the poles of the dimension, a careful consideration was made on both inter community communication (input and output community communication) and intra-community communication.

For intra community communication, various situations and elements leading to the formation of community communication space which in turn regulate community members' behaviors, were considered. In addition, considerations were also given to traditional human relations, organizational structures, and informal communication relationships found within this space.

The community, as featured in this study, is quite clearly not the planned society resulting from the notion of ideal society as used by many urban planners today. On the contrary, the community in this study is a typical Japanese small community, formed historically and thus containing various elements typical to Japan.

The reason a community of this type was selected for the current study was based on the belief that the basic understandings of various problems facing segmental societies of modern days Japan can be obtained. This is quite obvious in rural community faced with decreasing population and also in static communities, but amidst the many Japanese local communities, which are in the process of expansion, these small traditional communities form the core. In these communities, problems are created by people moving in from the outside and mixing with the population within.

However, in contrast to the small segmental communities decreasing in population, the larger communities increasing in population density possess various elements to attract new population, and these elements and the relationship between the new and old population must be considered within the framework of community communication system.